

豊橋市制施行100周年記念

校区のあゆみ

西郷

豊橋校区史

2

Saigo







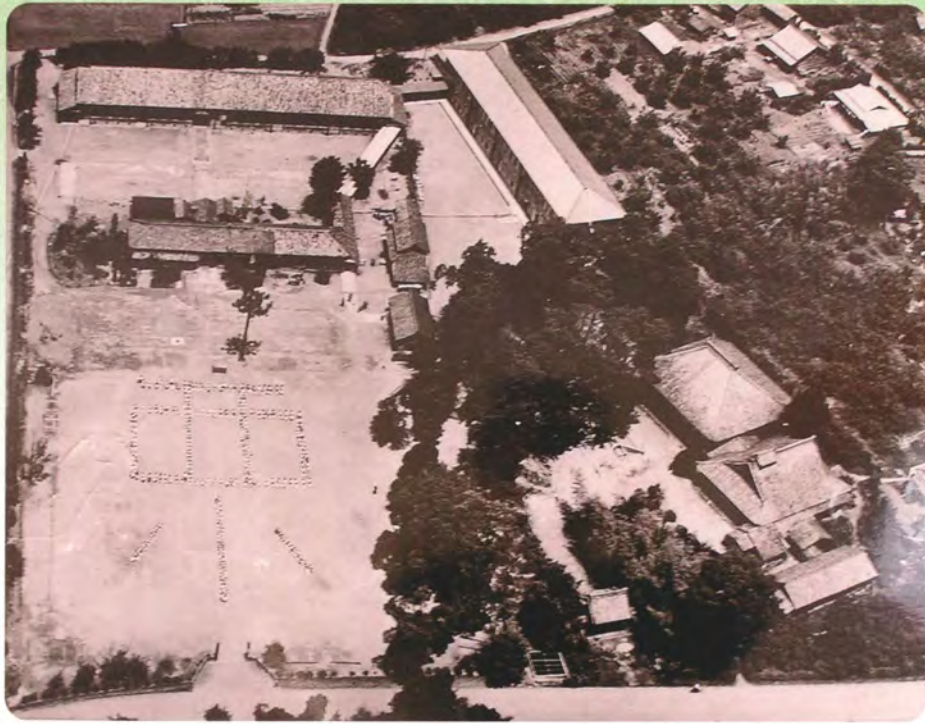
豊橋市制施行100周年記念

校区のあゆみ 西郷



カタクリの花

豪族 西郷氏が築城したという西川城址の斜面に、咲き誇るカタクリの花。
この山は「カタクリ山」と呼ばれ、多くの人に親しまれている。(西川町)



昔の西郷小学校

昭和35年（1960）撮影

第一期 新木造校舎建築（昭和32～37年）により、戦前から使われてきた校舎の建替えが行なわれている。正門は東側（県道側）にあった。

現在の西郷小学校

平成7年（1995）撮影

第三期 鉄筋校舎建築（昭和53～平成8年）により、現在の校舎に建替えられている。



青い目の人形3姉妹

昭和2年（1927）4月21日、西郷尋常高等小学校にアメリカからやって来た青い目の人形「コネタ」（写真中央）



じょう
尉



おきな
翁



翁



翁

あまごいめん
大蔵神社の雨乞面 (中心町)

能面が定型化する頃の面として研究上貴重なもので、
昭和42年（1967）、市の有形文化財に指定されている。



じゃ
蛇



かつしき
渴食



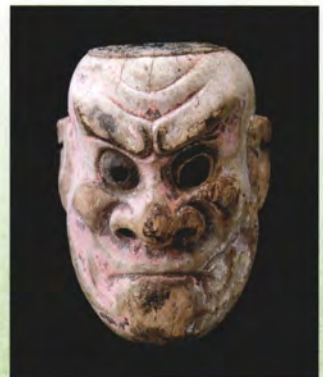
中将

あまごいめん
日吉神社の雨乞面
(萩平町)

あまごいしんじ
雨乞神事を考えるうえで貴重であるとして、昭和42年（1967）市の有形文化財に指定されている。



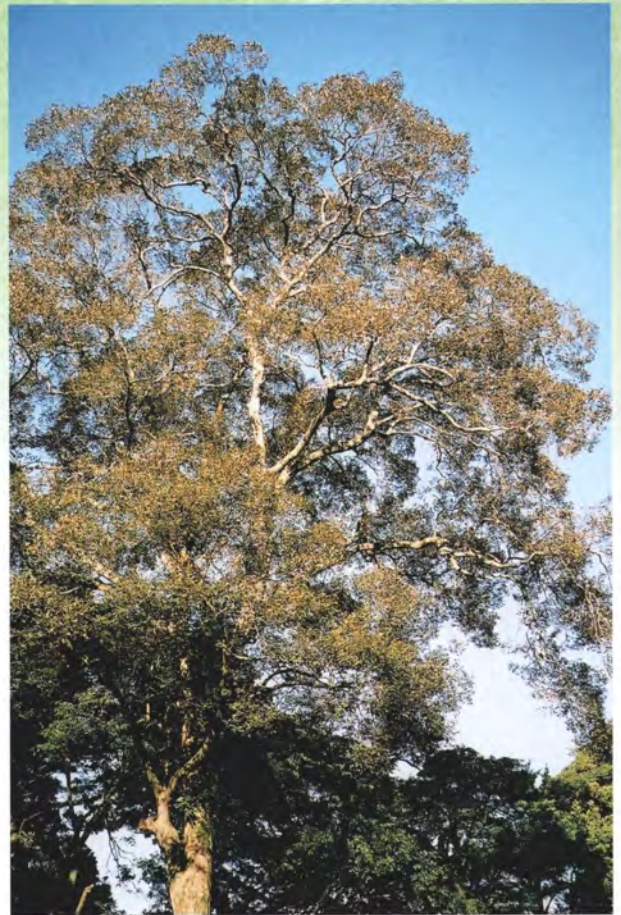
うば
姥



小ジカミ

大福寺のオトメツバキ (五色ツバキ)

幹周 180 cm
枝張り 8 m×7.6 m
高さ 8.3 m
樹齢 (推定) 350年以上



大蔵神社のイチイガシ (中山町)

幹周 272 cm
枝張り 18.6 m×24.9 m
高さ 24.2 m
樹齢 (推定) 300年以上



次郎柿の古木 (小野田町)

幹周 165 cm
枝張り 9.7 m×8.3 m
高さ 4 m
樹齢 92年

発刊によせて



平成18年度
豊橋市総代会長

西 義 雄

このたび、豊橋市制施行100周年を記念し、「豊橋校区史～校区のあゆみ」を発刊する運びとなりました。皆様のご協力により記念事業に素晴らしい彩りを添えることができましたことを、心よりうれしく思います。

この事業は、100年の節目を契機に地域の歴史や文化、自然などを改めて見つめ直し、将来の夢に思いを馳せていただくものであり、51校区すべてが足並みを揃え発刊できたことに、たいへん大きな意義を感じています。また、各校区におきましては、編集委員を中心に多くの地域住民の皆さんが資料の収集や原稿の執筆などに携わられたことと思います。こうした取組みを通し、地域の絆がさらに深まったものと考えています。

地域イベントの開催を含め「市民が主役」を合言葉に行政と協働で進めてきた100周年記念事業ですが、多くの地域住民の方々が様々な形で挙って参加できたことが何よりの成果であったと思います。今後におきましても、この100周年記念事業を一過性のものに終わらせるのではなく、次の100年に繋げていかなければならないと考えています。

最後に、本校区史の発刊にあたり、多大なご協力を頂いた多くの皆様に改めてお礼を申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



平成18年度
西郷校区総代会長

夏 目 利 泰

「校区のあゆみ西郷」の発刊にあたり、ごあいさつの機会をいただくとともに、本書によって西郷の皆様の心のつながりが、一層深くなることをうれしく思います。

わが校区西郷では、市制施行100周年記念事業の一環として、悠久の昔日から現代へと、先人がたゆまぬ努力を積み重ねられた誇らしい郷土「西郷の歴史」を学び、次代に受け継ぐ第一歩の教訓として、校区史を刊行する運びとなりました。

西郷校区には、著書や編纂された史書もあまたを数えますが、今回はその史実を基に校区総代会が校区史編集委員会を組織して、ダイジェスト版として発刊したものであります。

平成16～18年度の校区総代会長を委員長とし、後記の編集委員の方々には大変お骨折りをいただきました。中でも、阿部義明氏・富田芳治氏には、学識経験者として編集総括のご指導も賜りました。西郷小学校・みどり保育園には、関係プロットの執筆を賜りました。ここに各方面からご尽力をいただいた関係者の皆様に深甚なる謝意を表します。

西郷にゆかりのある皆様が、本書を郷土「西郷を愛する心」の糧とするとともに、あすの西郷を築く一助とされるよう念願するものであります。

目次

CONTENTS

第1章 自然と環境	7	(10) 530運動	25
1 西郷校区の位置と地形地質	7	(11) 敬老会	25
2 土地のようす	8	第3章 教育と文化	26
3 気候のようす	8	1 学校教育、保育	26
4 交通のようす	9	(1) 小学校	26
(1) 道路	9	(2) 保育園	30
(2) 交通	10	2 社会教育	33
5 西郷の地名	10	成人教育	33
第2章 歴史と生活	12	施設見学会	33
1 西郷校区の歴史	12	3 社寺と史跡	34
(1) 原始時代	12	(1) 神社	34
(2) 古墳時代	12	(2) 寺院	34
(3) 古代から中世へ	13	(3) 史跡	36
(4) 近世の西郷校区	14	古墳	36
(5) 明治時代	15	太陽寺跡	37
(6) 大正時代	16	城跡	37
(7) 昭和初期～太平洋戦争へ	16	文化財	38
(8) 戦後の復興	17	4 むかし話	41
(9) 新しい時代へ	19	西郷の歴史年表	48
2 西郷校区の産業	21	編集後記	52
3 西郷校区の活動	22		
(1) 体育活動	22		
(2) 市民館活動	23		
(3) コミュニティ活動	24		
(4) 伝統芸能の継承(雅楽)	24		
(5) 納涼祭り	24		
(6) 交通安全	24		
(7) 青少年健全育成活動	25		
(8) 防火・防犯活動	25		
(9) 防災訓練	25		



第1章 自然と環境

1 西郷校区の位置と地形地質

(1) 位置

西郷校区は、豊橋市の最北部に位置し、東は弓張山系を境に静岡県浜松市に接し、西は賀茂校区と一部豊川市に、南は玉川校区・嵩山校区に、北は吉祥山を境に新城市と接しており、豊かな自然に恵まれた校区である。

校区のほぼ中心地に豊橋市立西郷小学校、その西隣には、校区市民館・みどり保育園がある。

西郷小学校は、北緯34度49分49秒、東経137度28分11秒に位置している。

(2) 面積

西郷校区の面積は、1,703.66haであり、東西5,372m、南北5,110mの長さとなっている。本市の校區別面積を見ると、西郷校区が第1位で最も広く、次が豊南校区（約1,357ha）、以下高根・牟呂・大崎の各校区の順である。

(3) 地形

校区の東側を弓張山系の山々がほぼ南北に走り、最高地点の標高は464mで、豊橋・新城・三ヶ日の境になっている。ここから、380～450mを上下して石巻山の方へ伸びている。

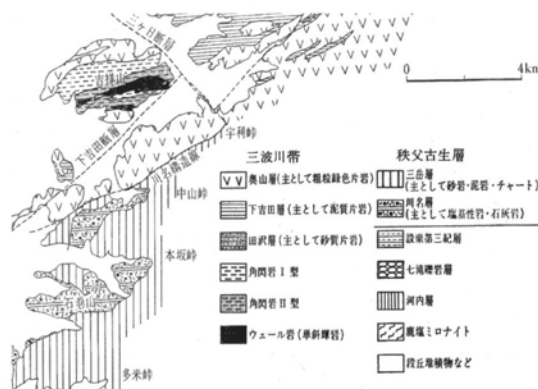
中山町の南、標高448mの地点で分岐した支脈は次第に低くなって日名倉山や城山へ続き、さらに別所街道を超えて、西川町向山に至る丘陵と小野田町茶臼山の丘陵に続いている。

吉祥山は標高382mの独立峰で、東西に長く尾根を伸ばしている。これらの山のふもとに

はゆるやかに傾斜した台地が形づくられ、この台地を削って何本かの小川が流れ、水田を潤し間川に合流して豊川に入る。校区全体としては東高西低の傾斜を持ち、山に囲まれた盆地地形もある。

(4) 地質

日本列島は、新潟県糸魚川から静岡県にかけて走るフォッサマグナにより、東西に分断されている。さらに諏訪湖付近の杖突峠から天竜川の東側に沿い、豊川の谷を通り、紀伊半島・四国を経て九州に至る長い断層帯（中央構造線と呼ぶ）があり、その内側を領家変成帯、外側を三波川変成帯と名付けている。



西郷校区の地質図

西郷校区は三波川変成帯と呼ばれている地層の上にある。この地層は非常に複雑で、日本列島がまだ海底にあった3億年の昔に堆積し、30kmも沈んでマグマ（地球の深くにある高温のドロドロに溶けた岩石）や大きな圧力を受けて変化したといわれている。この変成

帯の南は、弓張山系に沿って川名構造線と呼ばれる断層によって断ち切られ、秩父古生層に続いている。また、別所街道に沿って下吉田断層が走っている。

(5) 岩石と土壌

校区の山々をつくっている岩石はいろいろあり、中山や平野で採石している建築や道路に使われている緑色の岩石を輝緑岩といい、緑黒色の塊状のものと片状ではがれやすいものがある。

吉祥山は角閃石片岩で構成され、灰色を帯びた濃緑色をしており、細粒を日光に当てるとキラキラ輝いて見える。また単斜輝岩もある。このほか、斑レイ岩や泥質片岩もよく知られている。

校区の平地の大部分を占める標高約40m以上の台地は洪積層、間川や安川沿いには一部に沖積層が広がる。

校区の土壌は多くの岩石や礫を含み、硬くしまっていて、農機具の磨耗が早く、深耕の妨げになっているが、母岩に由来してマグネシウムなどを多く含み、水はけを良くすればおいしい果樹生産に適している。

2 土地のようす

西郷校区内の土地利用は、すべて市街化調整区域であり、全体的に小規模な農業集落地が点在し、集落地内は、住宅地を主体とした土地利用になっている。

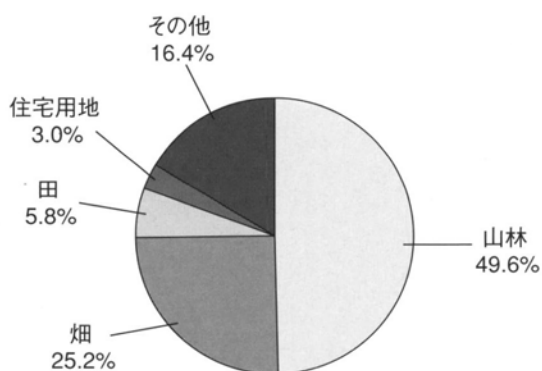
校区内面積の内訳を見ると、山林が一番多く半分を占め844.88ha (49.6%)、次に畑の430.12ha (25.2%)、田の98.00ha (5.8%)、住宅用地51.86ha (3.0%)、そしてその他の用地となっており、校区内の農地は528.12ha (31.0%) となっている。

畑のほとんどが樹園地であり、栽培してい

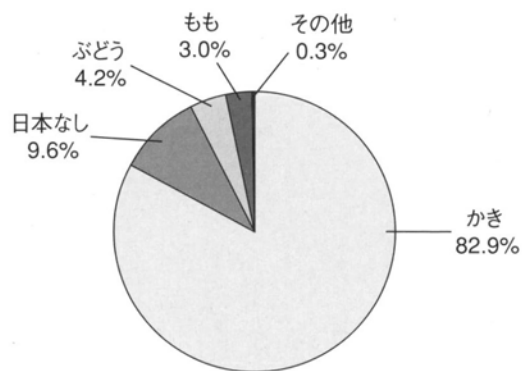
る果樹の主な物は、かき・日本なし・ぶどう・ももである。

栽培面積は、かき226.41ha、日本なし26.13ha、ぶどう11.61ha、もも8.33haとなっており、割合は、かき82.9%、日本なし9.6%、ぶどう4.2%、もも3.0%の順である。

このことから、校区内では、かきの栽培がほとんどを占めており、農産物の第一位となっているのがわかる。



西郷校区の土地利用状況

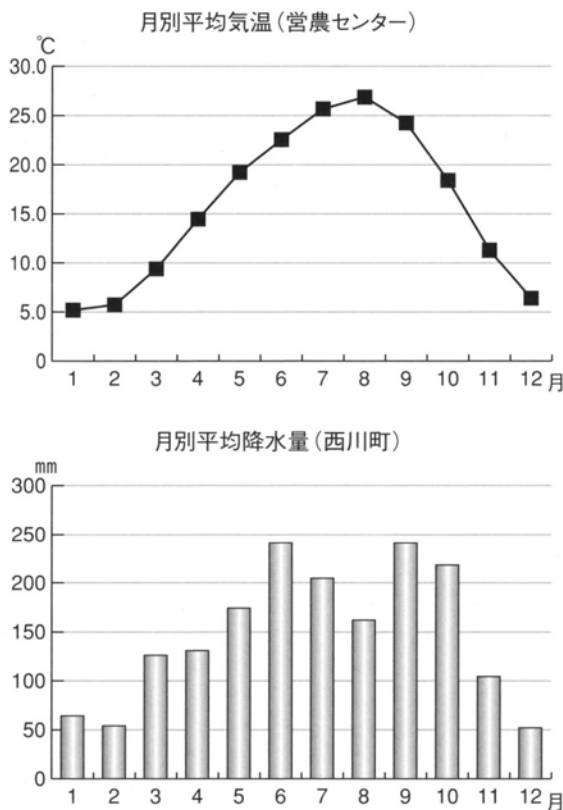


西郷校区の果樹栽培状況

3 気候のようす

校区内には気象観測施設が無く、正確なデータはないが、3km余離れた農協営農センターの農業気象観測設備(自記)によると、年平均気温(1996~2005平均)は15.7℃、1月は5℃、8月は26.8℃で、県内では温暖な地域に入るが、海岸部より幾分低い。

降水量は記録不完全のため、代わりに西川町本郷のデータをみると、年間降水量（1996～2005平均）は1,790mmで、冬季は少なく乾燥が続く、6～10月に多くなっている。これは梅雨・台風・秋りん（秋の長雨）によるものであり、また、太平洋高気圧が強くなると月間降水量100mm以下となることもしばしばあり、とくに8月には干ばつになることが多い。また、空梅雨となって田植えが遅れたり、柿の実が肥大する9～10月に葉がしおれることもある。



凍霜害 冬の間、寒さに耐えてきた植物は、暖かくなると低温に対する抵抗性が失われて、凍霜害を受けやすくなる。県内では4月半ばから5月の始めまで、とくに4月24日前後が最も頻度が高いといわれている。

よく晴れた日の朝方は、放射冷却が行なわれ、地上付近の暖かい空気と上空の冷たい空気が入れ代わる逆転現象が起こり、盆地や山

のふもとは傾斜にそって冷たい気流が流れ込んで停滞するので、局地的に霜の被害がひどくなる。校区内では、間川・安川沿いに冷気流が集まる西川町の低地に被害が起りやすい。

過去13年間に当校区で被害があったのは、4月9日～14日までに最低気温が -3.2°C ～ -3.6°C に下がったときであった。

4 交通のようす

(1) 道路

東名高速道路

市の最北端にあたる吉祥山麓を、東名高速道路が東西に走っている。この道路は、昭和44年（1969）に開通し、別所街道と交わる場所に「豊橋北バス停」が設けられている。

県道

① 81号線（豊橋新城鳳来線・別所街道・柿の木街道）

この街道は明治9年（1876）に県道別所街道として指定されたもので、校区の南西部（小野田町初坂）から北東部（萩平町四ツ谷）にかけて、校区を縦断している重要な道路である。

平成2年（1990）に市が道路愛称を公募して、次郎柿の産地石巻にふさわしい「柿の木街道」と名づけた。

② 449号線（石巻萩平豊川線・賀茂街道）

賀茂しょうぶ園の南を通り、西川町のお宮（素盞鳴神社）前から民家の全くない農地の中を抜け、萩平町四ツ谷の別所街道に合流する道路である。

西川～萩平間は、現在舗装されてはいるが、拡幅なども行われておらず、明治時代のままの曲がりくねった街道である。

③ 381号線（一宮石巻萩平線・養父街道）

東名高速道路に沿って萩平町から西川町北之谷まで行き、東名のガードをくぐって金沢

(旧称、養父)に至る道路である。この道路沿いには中部電力三河変電所や、県の企業用地が造成されているため、道路は整備されている。

市道

校区内の市道は網の目のように四通八達している。戦前(昭和20年まで)は県道も市道も舗装されていなかったため、雨が降れば至るところに水たまりができたり、場所によっては川の代わりをする始末であった。戦後になって改修・整備が次第に進められ、舗装も行なわれた結果、現在では校区内のどこにでも自動車などの乗り入れが可能になった。

交通量の多い市道はつぎのようである。

- ④ 西川町北之谷の養父街道と賀茂街道(素蓋鳴神社下)を結ぶ道路。
- ⑤ 西川町のカタクリ山麓(賀茂街道)から南進して牟呂用水に至り、同用水堤を南下して豊川市三上町に向かう道路。
- ⑥ 西郷小学校前の信号から西進して、西川町のカタクリ山麓で賀茂街道と結ぶ道路。
- ⑦ 平野町の二本松から別所街道と分かれて小野田町へ入り、牟呂用水へ至る道路。

(2) 交通

昔の交通手段はすべて徒歩であり、荷物を運ぶにも人力か、牛・馬などの力を借りるしかなかった。

戦後、世の中の進歩とともに校区内の農家にもトラックが導入されはじめ、さらに乗用車へと発展してきた。とくに市街地と離れている不便さを補う必要から、昭和50年代以降になると、成人1人が1台の乗用車を持ち、トラックは作業用として別に所有するという家が多くなった。

このため校区内の交通量は多くなり、そのうえ採石業者が近隣にも多い(校区内2か所、賀茂町1、新城市2)ため、碎石を満載した

ダンプが行き交い、「ダンプ街道」などという喜ばしくない代名詞まで生まれている。

豊橋鉄道の定期バスは、昭和のはじめ頃から通って校区民に多くの利便性を与えてくれたが、自家用車の増加とともに乗客が減少して赤字路線となり、今後の存続が心配されている。

5 西郷の地名

「西郷」という呼び名がいつ頃から使われるようになったのか明らかでない。一説によると、約900年前、中山に白星山太陽寺が創建されたころ、佐井天神が祀られていた社地へ山王祠を建てて、7か村(中山・萩平・平野・西川・小野田など)の総社として崇敬したという記録から、「佐井天神の郷=佐井郷=西郷」と呼ばれたという。

もう一つの説は、九州にいた西郷氏が戦国時代(16世紀はじめ)に東三河へ来て、五本松城や西川城を築いて本拠としたので、西郷氏の名をとって「西郷」と呼ぶようになったという。

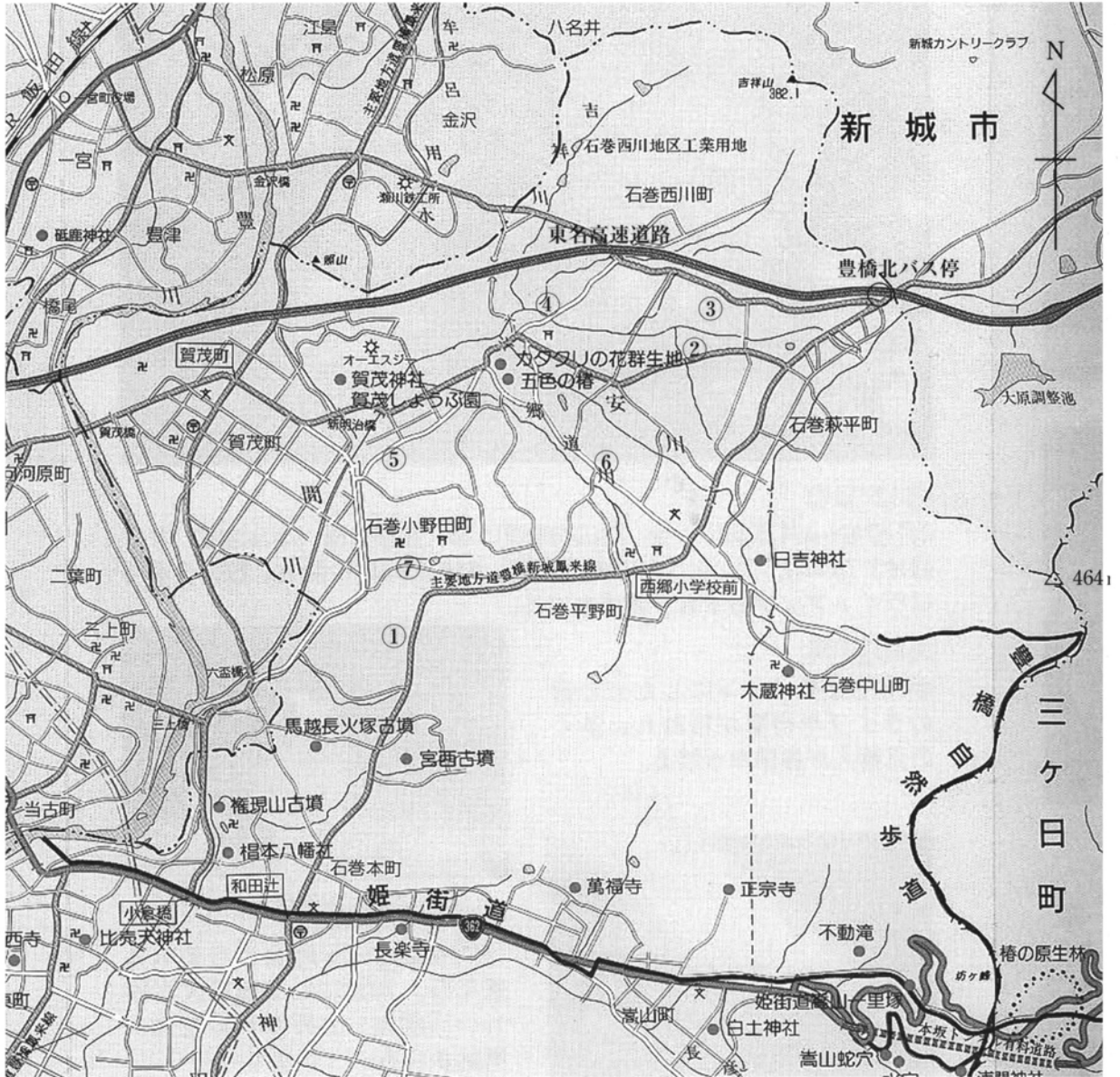
いずれにしても江戸時代には「西郷7か村のうち中山村」というような使われ方をしていたので、「西郷」という呼び名が400年以上も前から使われていたのは間違いない。

明治21年(1888)、6つの村が合併して西郷村をつくり、その後、石巻村が誕生するまで18年間続いた。現在、「西郷」という呼び名があるのは「西郷小学校」のほか「西郷校区〇〇」(総代会・市民館・文化協会等々)である。



校章

西郷校区の主要な道路



凡		例	
県	道	市 道 (交通量の多いもの)	
①	81号線 (豊橋新城鳳来線・別所街道・柿の木街道)	④	養父街道と賀茂街道を結ぶ道路
②	449号線 (石巻萩平豊川線・賀茂街道)	⑤	カタクリ山麓から豊川市三上町へ向かう道路
③	381号線 (一宮石巻萩平線・養父街道)	⑥	西郷小学校前から賀茂へ向かう道路
		⑦	平野町二本松から小野田へ向かう道路

第2章 歴史と生活

1 西郷校区の歴史

(1) 原始時代

旧石器時代（約400万年前～12,000年前）

西郷校区に、いつごろから人が住んでいたか、はっきりしたことはわからない。しかし、昭和32年（1957）に、すぐ近くの牛川町の石灰岩採石場で、5～8万年前の旧人に属するものと考えられる化石化した人骨が発見されている。

昭和35年（1960）、新城市川路の加生沢遺跡（三河東郷駅の東600m）から石槍など約10万年前の石器が発見され、さらに豊川市日吉原遺跡・駒場遺跡などでも旧石器時代の遺跡が発見されている。

このような事例から、西郷校区でも木の実を拾い、鹿やいのししを追い、魚を捕って生活していた人たちがいたと推定される。

縄文時代（約12,000年前～2,300年前）



竪穴住居

採集・狩猟で得た食料は、縄目文様のついで

た土器で煮炊きして食べるようになった。住居は、地面を掘り下げカヤで屋根を葺いた竪穴住居と呼ばれる小屋で、これらがいくつか集まってムラができ、共同生活が営まれるようになった。

西郷校区では、平野町中野田遺跡や小野田町成沢遺跡から、石斧・水神平式土器などが発見されている。

弥生時代（約2,300年前～1,700年前）

鉄・青銅などとともに大陸から伝来して北九州で始まった稲作は東海地方に達し、石巻本町の白石遺跡・高井遺跡など周囲に環濠を持った集落から、米づくりの技術が伝わったことを裏付ける遠賀川式土器が発見されている。

校区では、このころの遺跡らしいものは発見されていない。わずかに西川町北之谷と平野町象之谷で石斧が発見されたという記録があるに過ぎない。

(2) 古墳時代（約1,700年前～1,300年前）

古墳によって社会のさまざまな制度や秩序が表された時代で、古墳の形の変化によって前期・中期・後期に分けられる。

こうした種類や大きさの違いが豪族の地位やでどころを表していたと考えられ、古墳の築造技術は、大規模な土木技術にも活用され、朝鮮半島から伝えられた文化がこの時代を著しく発展させた。

西郷校区の古墳 この地方の小高い丘陵・権現山（石巻本町）・勝山（豊川市三上町）などには、そこから眺められる範囲を支配して

いたと考えられる首長の墓が築かれている。

西郷には、現存する古墳のうち一応の調査が行なわれて史跡・古墳として解説されているものに、茶臼山1号墳・北長尾8号墳・向山1号墳・狐塚・姫塚・段塚などがある。

このほか、6～7世紀に築かれた後期古墳は、ほとんどが群集した円墳で、市内校区别では西郷が最も多い。吉祥山の中腹から山麓にある古墳は積石塚や半積石塚が多い。

(3) 古代から中世へ

穂の国から三河国へ 大化2年(646)、穂の国と呼ばれていた東三河は西三河と統合して三河国となった。このころの資料はきわめて少なく、不明の点が多い。

国の出先機関である国府は、現豊川市白鳥町に置かれた。「和名抄」には三河68郷のうち、八名郡は7郷(多米・美和・八名・養父・和太・服部・美夫)からできていたとされる。西郷校区が八名7郷のどこに入るのか、諸説があってはっきりしないが、たぶん「美夫郷」であろうといわれている。

班田収授 中央政府は、戸籍を作り6歳以上の男女に口分田を与えた。これは税の確保をはかり、豪族の土地所有を制限するもので、田畑を整然と区画した。賀茂・嵩山にはその跡が残っていたが、今はない。

平安時代 奈良時代の中ごろから、貴族の勢力争いで政治が乱れ、地方では私有の荘園が増え、班田収授の実施がむずかしくなった。桓武天皇は京都に都を移して国司の監督を強化、農民の負担軽減など律令政治の改善に努めたが、乱れた地方政治は正されなかった。

当時、東三河では伊勢神宮の神領が多く、この地方では、京都賀茂神社領の小野田荘(賀茂町を中心とした地域)や宇利荘(新城市八名地域一帯)があり、西郷は小野田荘に含まれていたらしい。

もののふたちの世界 国司の悪政は地方の治安を乱したが、朝廷はこれを取り締ることができず、豪族たちは自衛の集団を作り、これが武士の始まりとなった。

元暦元年(1184)、源範頼が三河守に、安達盛長がその守護に任命された。盛長は三河七御堂や、西川の東光寺(廃寺)を建てた。**建武の新政と南北朝** 鎌倉幕府は元寇以後の財政難などによって衰え、後醍醐天皇は倒幕を企て、一旦は新政を始めたが、政情は安定せず、足利尊氏は光明天皇を立てて南北朝の対立が始まった。

石巻山の頂上付近には城跡があり、伝説によれば南朝方の高井主膳正がここにこもって戦ったといい、当時は三ヶ日から引佐方面に南朝方の井伊氏が勢力をのぼしていた。

「吉祥山今水寺聞書」には奥山方広寺の無文元選禪師(後醍醐天皇の皇子)と今水寺の日峯和尚が、吉祥山で倒幕(?)の会談をしたとされている。

西郷氏の登場 西郷氏は、永正の終わりごろからこの地方の豪族としてその名が現われ、馬越の素盞鳴神社の永正16年(1519)の棟札に西郷信数、享禄5年(1532)の棟札に西郷信員の名が見える。

大永3年(1523)、西郷信員(はじめ信員、後正守)は月ヶ谷城を築き、初めは今川氏に属し、後松平清康に従って吉田城・宇利城攻めに参加したが、その後再び今川氏に従った。永禄3年(1560)、今川義元が討死すると、正員の子正勝は、松平元康について中山に五本松城を築いて移り、元正を月ヶ谷城に置いた。翌年7月、今川勢が野田城を攻め、元正は菅沼定盈に加勢し籠城したが、抵抗できずに開城して退き、定盈は高城砦を築いて正勝父子と今川氏に対抗した。9月、今川方で牛久保の牧野勢が中山に侵入したが、大玉川(安川)で対戦これを撃退した。

永禄5年（1562）、遠州宇津山城の朝比奈泰長が五本松城を急襲した。不意を突かれた正勝父子は家臣70余人と討死し、月ヶ谷城もこのとき落城した。二男清員は岡崎にいて（一説にこの戦いで捕えられたが、谷に飛び降りて逃れ）後に元の領地を取り返した。

清員は、永禄5年ごろ西川城を築き、兄元正の子義勝を後見し、一宮砦・吉田城・田原城・姉川の各地に転戦して軍功をあげ、元亀2年（1571）3月、武田の将秋山晴近が設楽郡竹広（新城市）に侵出したとき、設楽氏・菅沼氏と協力してこれを退けたが、義勝は戦死した。

義勝の妻お愛は、夫の死後、叔父清員の養女として徳川家康の側室となり、2代将軍秀忠とその弟忠吉を産み、「西郷局」と崇められ、天正17年（1589）、駿府城で亡くなり（38歳）、寛永5年（1628）従一位を贈られた。

家員は、清員の長子で、従兄義勝の戦死後その娘を妻として本家を継いだ。元亀2年（1571）4月、武田信玄・勝頼父子が大野田城（新城市）を攻め、菅沼定盈は城に放火して退却、山県勢はこれを追って西川城に迫ったが、矛を転じて吉田城を攻め、一旦帰国した。

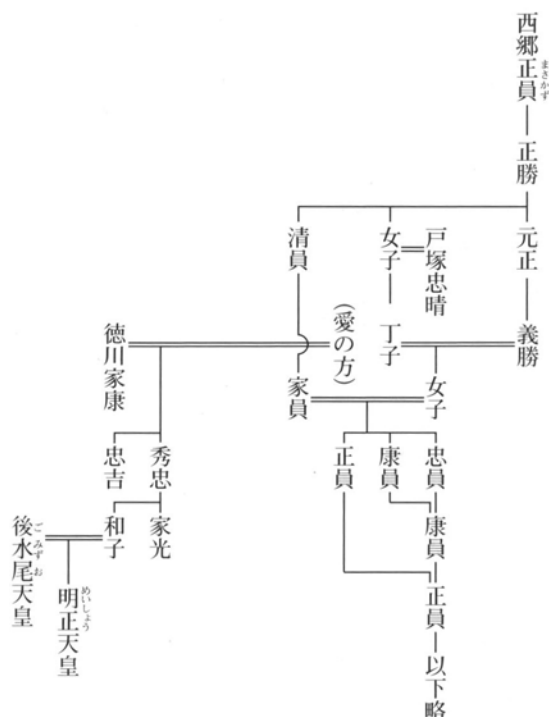
翌3年（1572）12月、三方原の戦いに家員は武田の先方と戦って負傷した。4年正月、信玄は1か月余り野田城を囲んだが、上洛を断念して帰国の途中亡くなった。

天正3年（1575）5月、長篠の戦いでは、家員は鷲ヶ巣攻撃隊に加わり、同18年（1590）、小田原城攻撃にも参加した。

戦いに明け暮れた中で、西郷氏は民政にも意を用い、嵩山の正宗寺、同白土社、月ヶ谷の若一王子社、高井の正八幡社、萩平の日吉神社などを造営したり、寄進している。

天正18年、家康の関東移封に従い、家員は下総国千葉郡生実（千葉市）5千石に封ぜら

れた。その後は家員の子が続いて相続、四男正員は安房国東条（現鴨川市）で1万石の大名になったが、その子孫、延員、寿員は勤務を怠ったため、勘気をこうむり5千石の旗本に格下げとなった。



西郷氏の系譜

(4) 近世の西郷校区

天正18年、池田輝政が15万2千石を領有して吉田城に入り、城郭の拡張、豊川の架橋、城下町の整備を行ない民政にも心を尽した。慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いの後、輝政は姫路に移封、西郷各村は明治まで270年間吉田藩領として支配された。しかし、西川・入文・成沢は一時小笠原長秋の支配下になりその陣屋は西川村に置かれた。

検地と年貢 天正18年から太閤検地が行なわれ、1坪の面積を6尺3寸4方に、1反を300歩、1畝を30歩とした。全国一律の京枧を用い、土地の生産高の基準は上田1石5斗・中田1石3斗・下田1石1斗・上畑1石3斗・中畑1石1斗・下畑9斗・屋敷1石3

斗であった。これが石盛^{こくもり}で、面積に石盛をかけて土地の生産高を表した。

西郷各村の石高と戸数

村名	年号	慶長9年 (1604) 検地帳(石)	元禄14年 (1701) 郷帳(石)	明治2年 (1869) 高辻帳(石)	安政5(1858)	
					戸数(戸)	人数(人)
中山村		159	141.1	228.2	59	261
萩平村		73	129.9	387.2	67	272
平野村		247	276.5	520.8	88	385
中野田新田		—	—	55.8	2	15
西川村		279	307.5	790.2	101	393
入文村		93	91.1	164.7	46	198
成沢村		42	43.2	57.1	12	44
合計		893	989.3	2,204.0	375	1,568

百姓の税は主に田畑の年貢で、生産高に4割から5割をかけて算出、米納を原則とした。また、山や海の産物や副業などの収入にも課税され、道路・河川の土木工事などには労働課税もあり、農民は生かさず殺さずという領主の考えに苦しんだ。

村の自治と五人組 村には庄屋・組頭・百姓代の三役と呼ばれる村役人が置かれ、その任務は本来、村中の年貢をとりまとめて領主に上納することで、庄屋は1村に1～2名、組頭は補佐役として数名、百姓代1～2名以上と員数はまちまちであった。年貢は村請けといて村全体に課され、村方三役を中心に村自身で責任を持つことを村方自治といった。

このほか、農民を統制し支配するために五人組制度があり、五人組帳の前書(前文)で租税の滞納・異教徒・犯罪人の監察などについて連帯責任を決め、また耕作人口維持のため宗門人別帳を作り村々を支配した。

百姓は年貢として米を作り、自分や家族は麦・あわ・きび・そば・ひえ・大豆・さつまいも等を食料とし、綿を作って衣料とする自給自足の生活をしていた。また、茶・あい(染料)・菜種などを作った。

中野田新田の開発 江戸時代になると、幕府をはじめ諸藩の領主も新田の開発に力を入れた。

元禄15年(1702)、平野村庄屋庄兵衛、萩平村庄屋仁平、中山村庄屋作太夫の3人が吉田城主にお願いし、人夫延べ1万人を動員して鷹打池^{たこうじ}を造った。さらに、宝永2年(1705)には延べ3千人を動員して張原池^{はりわら}を造り、中山の諏訪明神の湧き水を利用して大玉川(安川)に井堰^{いせき}を設けて張原池へ水を引き入れ、現在の西郷小学校の西を開こんで新田を造った。

享保5年(1720)の石高は34石9斗余、同7年(1722)には新たに20石8斗余を開発し、総石高は55石8斗余となった。

(5) 明治時代

明治初期の行政改革 明治2年(1869)6月、版籍奉還が行なわれ、吉田藩は豊橋藩に、同4年7月、廢藩置県が断行され、豊橋藩は豊橋県に、11月には額田県の一部になり、明治5年11月、額田県は愛知県に合併した。西郷は、第14大区(八名郡)第2小区となる(中山・萩平・平野・中野田・西川・入文・成沢の各村を含めた23か村)など目まぐるしく変わった。

明治9年(1876)8月、県はこれまでの大・小区を廃し18区を設け、八名郡は第18区となり区会所が富岡村(新城市)に置かれた。このとき、入文・成沢は合併して小野田村に、中野田新田・平野が合併して平野村に、四ツ谷が萩平村に編入したが、正式認可は2年後であった。

明治11年(1878)12月、区制を廃止して郡区を置く。八名郡は第18大区となり郡役所が富岡村に置かれ、西郷各村は第18大区〇〇村戸長役場を置いた。

明治17年(1884)8月、八名郡を16組に分けて戸長役場を置いた。西郷各村は第16組となり、平野村悟本寺に戸長役場を置き、翌年5月、平野村外5か村戸長役場と改称した。

西郷村の誕生 明治21年(1888)、市町村制の法律が公布され、中山・萩平・平野・西川・小野田・馬越の6か村が合併して西郷村が誕生した。(公式に成立したのは22年)

日本の地方制度がはじめて近代的な統一国家にふさわしいものとなり、明治憲法、国会の開会準備が完了した時期でもある。

当時の大字別人口と戸数は次表のとおりであった。

西郷村成立当時の人口と戸数

大字	中山	萩平	平野	西川	小野田	馬越	合計
人口(人)	277	461	487	533	313	248	2,319
戸数(戸)	56	98	104	116	57	50	481

石巻村の成立 西郷村が成立して10有余年、国の政治経済の発展は著しかったが、一方で財政を圧迫して来たので、町村の規模をさらに大きくして財政の基礎を確立する必要に迫られ、県は戸数千戸、人口5千人以上を標準として町村合併の促進をはかった。数回にわたる試案が示されたが各村の意見は一致しなかったため、知事の職権をもって「西郷村・嵩山村・多米村・玉川村・三輪村を廃し、その区域をもって新たに石巻村を置く」と告示し、明治39年(1906)7月1日に石巻村が成立し、役場は大字玉川字市場に設けられた。

その後、昭和30年(1955)に豊橋市に編入され、初代村長後藤丑蔵うしろ蔵から15代村長松本徳男まで、49年続いた石巻村も、歴史の幕を閉じた。

石巻村成立当時の土地・人口・戸数

旧村名	田(町)	畑(町)	林野(町)	人口(人)	戸数(戸)
西郷村	171.4	198.4	863.1	2,799	477
嵩山村	76.1	38.7	480.1	1,196	225
玉川村	100.5	159.1	201.6	1,941	356
三輪村	81.1	65.8	184.5	1,371	232
多米村	73.0	35.9	91.7	784	154
合計	502.1	497.9	1,821.0	8,091	1,444

明治時代の農業 明治6年(1873)、地租が改正されて、米の年貢(物納)が金納に改められたので、農家は換金作物として養蚕を始め、桑畑をふやしたので他の畑作物が整理減少した。養蚕は明治20年代から盛んになり、日清戦役直後あたりから西郷校区に定着し、昭和10年ごろまで農家経済の中心になっていた。

養蚕の普及によって農家の労働は過重となったが、現金収入が増え、肥料・農機具・農業技術が改善され、食生活も雑穀中心から米麦主体に変わり、住宅は草葺くさむききから蚕室まごを兼ねた瓦葺かわむききに変わった。「繭1貫(3.75kg)米1俵(60kg)」と言われるほどのときもあって、「お蚕さま」と大事に扱われた。

(6) 大正時代

大正3年(1914)、第1次世界大戦が始まり、わが国は軍需物資などの輸出が急増し好景気を迎えた。しかし、近代産業と取残された農業との間には、社会的なひずみを生じた。都市への人口集中は都市の米消費を増やし、農村の労働力不足は米の減収を、ひいては米価の暴騰を招いた。

養蚕の黄金期は第1次大戦中で、石巻村の桑園面積は300町を超え、昭和5年(1930)には500町に達したが、繭価は大正11年(1922)に1貫匁11円していたものが、昭和6年には3円10銭に、7年には2円30銭にまで暴落し、日中戦争によってさらに大きな打撃を受けた。

(7) 昭和初期～太平洋戦争へ

日本経済は、第1次大戦後の恐慌で危機を深め、大正12年(1923)の関東大震災、昭和2年(1927)の金融恐慌、昭和3～6年(1928～31)の世界恐慌へと続いて、農村は未曾有の不況に見舞われて、欠食児童や娘の

身売りなど深刻な社会問題が起きた。

戦火の拡大と村民生活 昭和6年（1931）、満州事変が起り、同12年、日中戦争に拡大した。同14年、防空法によって防護団ができ、従来の消防組と統一されて警防団となり、石巻公民学校は義務制の青年学校になって、軍事教練が強化された。

昭和16年（1941）、太平洋戦争に突入し、動員と徴用・供出・配給制度の下で物資窮乏と労力不足は益々激しくなった。村の家々から壮年男子の姿が少なくなり、女性と老人・子供が農作業を担当したが、強力な生産統制と供出制度、肥料不足のために、生産性の低下は避けられなかった。

一方、必需物資は肥料・農機具・主食・衣料・タイヤ・チューブ・砂糖・菓子類・石鹼・酒・タバコまで、あらゆる品物が配給制度のワクに入った。

昭和18年（1943）、学徒戦時動員令により、学徒は学業を休止して軍需生産に従事することを規定された。また、25歳未満の未婚女子を勤労挺身隊に動員するとともに、理工系と教員養成以外の学生の徴兵猶予を停止して通年動員するほか、陸海軍人への志願を勧誘するなど、青少年の前途を暗くした。

さらに、戦争末期には疎開者の受け入れ、空襲警報の発令などによって生活全般が破壊され、昭和19年（1944）の干ばつによって食料不足は一層切迫した。配給は月に10日分ほどしかなく、不足分はいも類・豆粕等の代用食となり、遅配も日常化した。

戦局はいつそう厳しさを加え、サイパン基地から発進したB29爆撃機は、本土空襲を激化し、昭和20年（1945）6月の豊橋市空襲では市街地の70%を焼き、8月には豊川海軍工廠を壊滅させ、死者2,500人余、負傷者はその数倍に達し、学徒・女子挺身隊・学童も多数犠牲になった。

本土決戦と終戦 戦局は最終段階を迎え、一億玉砕のかけ声のもと本土防衛の準備が進められた。米軍は渥美半島から浜松地区に上陸すると想定し、敵を水際で撃滅するために、状況によっては豊橋平野を決戦場とする防衛計画が立てられ、陣地を構築したり、武器・弾薬・食糧の確保が行なわれ、怒部隊・鋭敏部隊が校区内の学校・神社・寺院に駐留して、校区の各地に地下壕を掘り、村民も必死で協力した。

昭和20年（1945）8月6日広島に、同9日長崎に原子爆弾が投下され、8日にはソ連が参戦し、日本は無条件にポツダム宣言を受諾して、8月14日連合軍に降伏した。15日正午、玉音放送によって国民は敗北を知り、ただ茫然として複雑な気持ちを整理するのに時間がかかった。

(8) 戦後の復興

飢えと失望の混乱の中で、人々は食糧と仕事を求め、インフレは闇市と食糧の買出しを生んだ。復員する軍人・引揚者・徴用解除された失業者が町にあふれた。

農地改革 大地主をなくし、自作農を増やして農村を民主化するため、GHQ（連合軍総司令部）の指導で、昭和21年（1946）2月に農地改革が施行された。

昭和20年（1945）11月現在、在村地主所有238.9町、不在地主所有60.4町を対象に、石巻村農業委員会は、昭和22年（1947）3月から44回の会議を開き、小作地の買収に取り組み、田73.9町、畑103.6町を買収し、所管替農地を含めて、田77.6町、畑103.5町が売り渡された。

石巻村の在村地主200戸中、1町未満が189戸を占め、1～3町未満が8戸、3～5町が3戸に過ぎず、零細地主が大多数であり、売り渡しを受けた農家728戸が改革前耕作していた土地の76%を自作化した。しかし全農地

の約1割は小作地として残った。

吉祥開拓 昭和21年3月、西川の吉祥山麓の陸軍射撃場跡地へ、地元出身の36戸が入植したが、12戸は脱落し、26年、長野県から新たに5戸が入植した。1戸当たり耕地1.2町、採草地0.4町の払下げを受け、食糧営団から米の特配を受けてバラックに仮住まいして、石混じりの乾燥した大地を唐鍬で一鍬ずつ開墾する苦しみは想像を絶するものであった。

強い酸性土壌は有機物に乏しく、甘しょすら満足に育たず、当初はいも類、かぼちゃを主食とする生活が続いたが、その後採卵養鶏や養豚を導入し、豊川用水を受益して経営が安定するようになった。

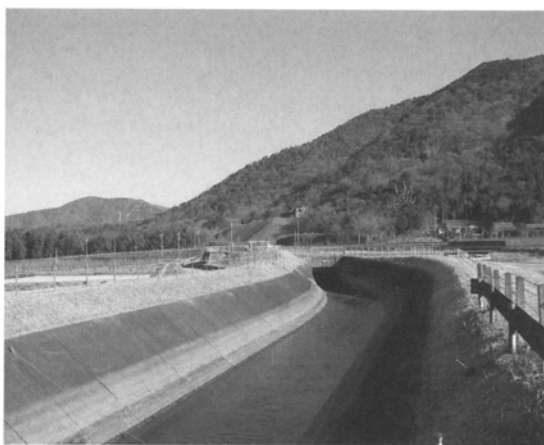


吉祥開拓記念碑

豊川用水 昭和24年(1949)9月、農業用水事業として始まり、33年(1958)、上水道・工業用水を含む多目的事業に変更され、36年に愛知用水公団が事業を引き継いで43年(1968)に完成した。

平成2～10年(1990～98)、特に老朽化の著しい水源・取水口・調整池など、主な施設の緊急改築を実施し、さらに平成11年12月、豊川用水二期事業に着手した。一方、昭和55年から農林水産省・県企業局が実施して来た豊川総合用水事業も公団が引き継いで平成14年3月に完成した。

校区内には東部幹線が萩平町の東部山沿いに流れ、いくつかの支線・分線が配管されてほとんどの田畑にかんがいできるようになった。全面通水は昭和43年であるが、上流から試験通水が始まり、西郷校区では昭和40年ごろから通水した。



豊川用水東部幹線(中山町地内)

土地改良事業 用水の受益と大型農機を効率的に利用するため、水田を中心に基盤整備が行なわれた。

西郷校区の基盤整備事業

年次(昭和)	事業主体	地区(工区)	面積(ha)	適用
35～39	豊橋北部土地改良区	吉祥山(主に萩平町・富岡も含む)	75.3	豊川用水関連未墾地事業
38～39	豊橋北部土地改良区	石巻萩平	62.8	団体管区画整理
40～42	賀茂土地改良区	賀茂町、西川町、小野田町	217.3	団体ほ場整備
41	豊橋北部土地改良区	石巻西川町(上ノ山)	10.0	非補助融資
43～49	愛知県	石巻西郷	72.3	農地開発(パイロット)
43～44	豊橋北部土地改良区	石巻西川	6.1	非補助融資
43	豊橋北部土地改良区	石巻平野	28.6	構造改善
44	豊橋北部土地改良区	石巻中山	22.9	非補助融資
49	豊橋北部土地改良区	川口	2.5	非補助融資
50	豊橋北部土地改良区	下安川	7.0	非補助融資
56	北之谷(共)	北之谷	2.1	非補助融資

当時は各農家の耕地面積も少なく、地形の上からもその面積はおおむね10aで、1区画

30a以上という国の方針通りにはならなかった。

しかし、石巻萩平地区のように、樹園地も含めて農道・用排水路を整然と区画した工事はまれであり、先に立つ土地改良区役員の英知の素晴らしさは敬服に値する。

(9) 新しい時代へ

豊橋市への合併 昭和28年(1953)9月、「町村合併促進法」が公布され、昭和30年3月1日、石巻村は豊橋市に隣接している他の町村(二川・前芝・高豊・老津)とともに、豊橋市へ編入合併した。西郷校区は従来の大字名に石巻を冠して石巻〇〇町と改められた。

当時の各町ごとの戸数・人口・土地状況は次の表のとおりであった。

合併当時の町勢 昭和30年10月現在

町名	戸数(戸)	人口(人)	住宅地(反)	水田(反)	畑(反)	山林(反)
中山	46	233	10,145	226,314	91,529	149,901
萩平	114	636	22,487	280,608	690,807	1,176,809
平野	126	659	21,963	368,214	743,504	1,128,429
西川	149	914	28,527	441,323	815,619	1,880,012
小野田	73	442	14,874	121,307	380,122	236,212
計	508	2,884	97,996	1,437,766	2,721,581	4,571,363

またその後の人口の推移は次の表のようである。

校区の人口推移 各年次とも10月1日現在

年次	世帯数(戸)	人口		
		男(人)	女(人)	計(人)
昭和30	508	1,438	1,446	2,884
35	504	1,338	1,386	2,724
40	510	1,310	1,357	2,667
45	518	1,240	1,320	2,560
50	511	1,214	1,252	2,466
55	500	1,183	1,234	2,417
60	515	1,226	1,257	2,483
平成2	554	1,244	1,246	2,490
7	608	1,306	1,297	2,603
12	640	1,315	1,333	2,648

間川とその支流の改修 吉祥山の南斜面を吉祥川・割田川・北之谷川が南流し、萩平町四ツ谷から西流する間川に注ぐ。萩平町の山地から一之沢川・二之沢川が北西に流れて間川に入る。中山町を源とする安川、平野町寒之谷から出る郷道川も間川に合流している。

西川町の芸能練習場付近は、間川と安川、吉祥川及び割田川が合流する低地で、改修前には集中豪雨によって床上浸水の被害を被ることがしばしば起きていた。その下流の西川町本郷、賀茂町坂井集落も同様の被害があったので、国・県・市に何度も陳情を繰り返し、昭和35～36年(1960～61)ごろから順次改修工事が行なわれた。

東名高速道路 昭和38年(1963)10月、東名高速道路(静岡～豊川)の施工が命令され、萩平町から吉祥山麓をかすめて賀茂町照山まで、豊橋市域の6kmを盛土による立体交差の工事に着手し、昭和44年(1969)2月開通した。

道路の標準断面は、片側2車線(3.6m×2)中央分離帯4.5m、路肩3mの計24.9mである。

豊橋北バス停は、県道豊橋新城鳳来線(柿の木街道)と立体交差点の上に位置し、豊橋本線料金所は校区の西隣りの賀茂町に設置され、平成元年2月から業務を開始した。

中部電力三河変電所 西川町と平野町・萩平町にまたがって大きな変電所がある。昭和42年(1967)2月、豊橋・豊川両市を中心とした東三河地区への電力供給のため、超高圧27万5千V変電所として建設された。

昭和55年(1980)、効率の良い安定した多くの電気を送電するため、50万V変電所とつながり、東三河・浜松・名古屋方面へと広範囲に送電できるようになった。昭和61年から4か年で設備を更新し、認可出力205万kVA、敷地はナゴヤ球場の2.5倍の11万㎡、主要変圧器は9台、関係する送電線は27万5千V8回

線、15万4千V10回線、7万7千V8回線が完成した。運転は現在24時間体制で、2名ずつ3交替で行なっている。

西郷校区の上水道 校区内は地下水に恵まれず、濁水に悩まされて来た。畜産が盛んになって地下水が汚染され、飲用に問題が生じるようになった。総代会では、市民平等の恩恵を受けられるように水道布設を陳情した。

幸いに水道法が改正され「無水源地域簡易水道」として国庫補助が適用され、昭和53～55年（1978～80）にかけて約5億円の事業費を投入して、牟呂松原用水を森岡で取水、東小鷹野の県東三河浄水場で浄化し、豊川市三上地内の権現山調整池タンクから平野町日名倉の北部配水場まで3.2kmの連絡管を敷設し、1日最大3,000tを配水する。受水区域は西郷一円の戸数約500戸で、55年7月に通水が始まった。



水道敷設記念碑

農業の近代化 農地改革によって自作農家がふえ、戦地や工場から村へ人々が帰り、「平和日本は農業立国で」という希望に満ち、校区に活気が戻った。

しかし、食糧事情は依然として厳しかった。

昭和24年（1949）には作付統制がなくなり、翌年には肥料・農薬・農機具の統制が解除された。以下、稲作について歩みを振り返ってみよう。

稲作の近代化 昭和25～26年（1950～51）ごろ、背負式の動力散粉機が実用化され、農協から生産組合へ共同利用の機械が貸与され、除草剤の2.4-D、害虫駆除にDDT・BHCの使用が始まった。続いて有機水銀剤・パラチオン剤が実用化し、いもち病・ニカメイチュウ等の防除対策が確立した。

しかし、人体毒性が問題となり、以降低毒性農薬に切り替えられるようになった。

昭和30年代に入ると牛耕に代わって動力耕運機が普及し、牛車・リヤカーに代わりトラクターが走る農村風景になり、40年代には中型トラクタが導入されるようになった。また、箱育苗・動力歩行型田植機の普及によって、苗代で苗を育て、腰を曲げて田植する2千年来の重労働から開放された。また、バインダー・自脱型コンバイン・粃の通風乾燥器も登場して、ハザ干しの秋の風物詩もほとんど姿を消した。



コンバインの収穫作業

昭和44年（1969）、北部農協にライスセンターが建設され、48年には育苗センターも建設されて、多くの組合員は育苗・刈取りから出荷まで農協へ委託し、柿・野菜・畜産などに力を入れるようになった。

昭和50年代には乗用田植機が実用化し、60年代には農協のライスセンターが更新され、個人や法人組織でも大型機械・施設を持って、

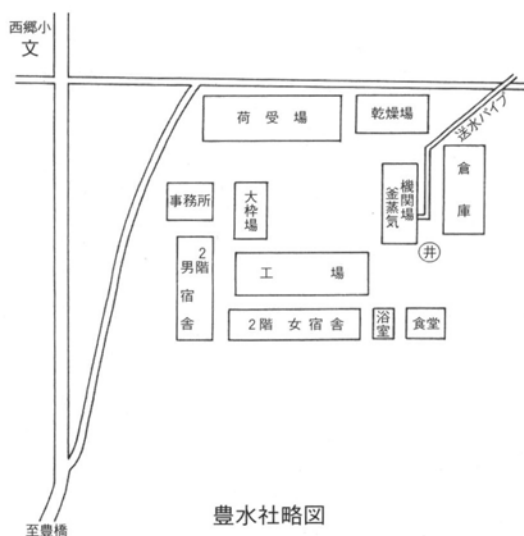
田植・防除・乾燥調整作業を請負う型もできてきた。

長い間、米増産を進めてきた政府も、40年代の始めから過剰米に悩み、44年から生産調整を行ない、農家は柿・いちごなどに転作を余儀なくされ、或は休耕という今までにない農政に振り回された。

2 西郷校区の産業

中山の石灰鉱山 小野田の瓦づくりは有名であるが、中山には石灰鉱山があった。大沢の山から石灰岩をほりだし、かまどでたきぎや木炭をあわせて焼き、「石灰」として売り出した。その量は1万6千貫（約60トン）といわれている。明治のころには機械はなく、もっぱら人の力にたよっていたので、ひところは、350人も人が働いていたそうである。

豊水社のこと 大正6年（1917）、舟着村吉川（現在の新城市）の本多継志郎は同志を語らって産業組合法による生糸販売組合豊水社という、60釜の製糸工場を創立した。これは愛知県における組合製糸のさきがけであった。



豊水社略図

豊水社は吉川の本工場について、平野に50釜の分工場を、続いて新城にも分工場を設

け、大正11年（1922）には190釜をもつ八名郡最大の工場となった。平野の工場には、女工を中心にして約60名の従業員がいたそうである。

大正末期には経営不振に陥り、昭和2年（1927）に県知事から解散を命ぜられて、豊水社は倒産した。

碎石のこと

鶴田碎石（株）中山工場について 昭和34年（1959）12月、中山工場（石巻中山町字矢ノ沢19の2）が開設された。工場の面積は約27万㎡、原石は「輝緑岩」、出荷量は年間50万t、従業員は全社で91人、中山工場は15人であった。

東海シーエス（株）平野工場について 昭和37年4月、平野工場（石巻平野町字日名倉43の2）が開設された。工場の面積は約32万㎡、原石は「輝緑岩」、出荷量は年間80万t、従業員はグループ会社を含めて100人、平野工場は36人であった。

柿栽培 西郷地区には、昔から甘柿や渋柿があったが、大正期に入ると生活レベルの向上と人口増加による消費力の高まりを背景にして、柿栽培への工夫もみられるようになった。

大正元年（1912）、小野田の山本鉄次ほか3名は、三上村（現在の豊川市）の杉山又吉から次郎柿の苗200本をもらいうけて植付けた。大正4年（1915）、山本鉄次は岐阜県から富有柿の苗を持ち帰り植付けた。これが石巻村における本格的な柿栽培のはじまりである。

太平洋戦争が始まった昭和16年（1941）、政府は、柿園などを縮小して食糧増産に切りかえるよう強制した。昭和17年（1942）、「食糧管理法」が公布され、決戦体制のもと、米麦だけでなく大豆や雑穀にいたるまで供出・配給が国の管理下におかれた。

このような状況下で柿の木を切り倒して普

通畑にするか、柿の木の間へ麦やさつまいもを作って供出するという事態になり、その結果、柿の収穫量も減少した。

昭和20年(1945)、太平洋戦争に敗れてから数年は、食糧をはじめあらゆる物資が不足し、米・麦・さつまいもを中心にした農業生産が続けられた。しかし、昭和24年(1949)頃から柿が石巻の特産物であるとの評価を高め、柿園が増加し始め、校区内各大字別に東京・静岡方面に出荷が始まった。石巻果樹園芸組合も再建され、早生系統「前川次郎」の導入も始まった。

昭和30年代には動力噴霧機の導入が目立つようになるとともに、大字別に統一規格を採用した共同選果が始まり、トラック輸送による出荷が行われるようになった。

昭和40年(1965)には平野町日名倉に農協の柿選果場(1日6,000箱)が完成し、昭和44年(1969)には東三河経済圏整備事業によって、豊橋・小坂井・一宮を統合した選果場を建設(1日6,000箱処理)、さらに昭和43～49年(1968～74)には、平野・西川・小野田の3町にまたがる県営開拓パイロット事業により、72.3haの集団柿園が造成され、昭和50年(1975)から出荷容器がコンテナに変わった。

昭和50年代中頃から、スピードスプレーヤ(SS)は個人導入が多くなり、同じころ、中耕除草に小型トラクタが、草生栽培では草刈機が普及した。

昭和61～62年(1986～87)には、新農業構造改善事業によって選果施設が更新(カメラ式形状選果機・自動箱詰・各種データのコンピュータ処理)され、1日12,000箱が選果されるようになった。

さらに、平成13～14年(2001～02)には、石巻本町太夫橋に豊橋農協の総合集出荷施設ができ、柿をはじめ桃・梨など1日160tの選

果能力を持つカラーグレーダー式選果機や、糖度センサー付フリートレー選果機が導入され、省力化が進められた。



SS防除作業

私たちは、時代の移り変わりをいち早く見ぬき、地域の産業に貢献した人々の努力を忘れないようにしたいものである。

3 西郷校区の活動

(1) 体育活動

校区民のスポーツレクリエーションとして、校区で選出した体育指導委員や各町の体育委員等が連携を取り、小学校の体育館等を利用して、バレーボール・インディアカを楽しんでいる。

小学校の運動会に老人クラブ・消防団・PTAが参加して玉入れ・綱引き・大玉送り・消防団のホースリレー等を行っている。昔は2人3脚・むかで競争等もあったが、最近は見かけなくなった。

豊橋市第4ブロック球技大会(西郷・賀茂・玉川・石巻・嵩山・牛川各校区)に男児はソフトボール、女児はフットベースボールに参加しており、優勝チームは豊橋市の大会に参加している。

豊橋市のスポーツフェスタには、選抜され

た町の有志が校区の代表として参加している。



小学校運動会

(2) 市民館活動

西郷校区市民館は、校区民の生活に関わりのある教育・文化に関する諸事業を行い、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉の増進を目的とし、昭和56年（1981）5月に現在地に開館し、今日に至っている。

市民館は館長と主事で業務を運営している。主な業務として図書の出し、各部屋の使用管理、校区の機関誌「西郷だより」の編集・印刷・配布を行っている。また、各種団体が活動の場として利用している。

市民館内には「西郷校区文化協会」（昭和53年設立）が設けられ、会員相互の教養の向上と親睦を図り、地域文化の向上に努めている。主な活動内容は民謡・カラオケ・生花・ダンス等各クラブ員の技能やコミュニケーションの向上を図っている。

昭和60年（1985）より年に1回定期的に文化祭を開催。平成16年（2004）より市民館まつりと名称を変更して、校区民の作品の展示、各クラブの活動成果の発表、子供たちの踊りおよび文化講演等を行い、多くの校区民に楽しんでもらっている。



市民館まつり

昭和58年（1983）に避難場所が見直され、市民館は第一指定避難場所となった。飲料水・保存食・土のう袋・防水シート等が常備されているとともに防災無線機も設置され、校区の防災拠点となっている。

また、帰宅しても家族等が不在の低学年の児童を対象として、平成16年より「学童保育」が始められた。

当校区には多くの古墳や城址などがあり、郷土史研究グループが校区市民館を拠点として熱心に調査・研究したり、郷土に伝わる昔の風俗・習慣・昔話などをまとめて「西郷の年中行事」、「西郷の歴史年表」、「西郷のむかし話」などを発刊している。

また、平成9年（1997）5月には、西郷校区文化協会が主催し、13名の編集委員が中心となって、戦争記念誌「国に捧げた青春」が刊行された。記念誌には西郷校区から従軍された方や戦没者の氏名、銃後で家を守った女性の思い出、当時の小中学生の記録、戦地から家族にあてた手紙、シベリアでの厳しい捕虜生活、戦中・戦後の食糧不足の実情など、戦争の悲惨さが紹介されている。戦争の経験者が少なくなり、記憶も薄れつつある現在、悲惨な戦争が二度と繰り返されることのないよう、戦争を知らない世代に引き継ぐべき貴重な資料である。



郷土史刊行物

価値観の多様化や長寿・少子化社会の進展、核家族の増加にともない、住民相互のコミュニケーションの促進・向上の場として、また、文化サークル・グループ活動の拠点として、市民館の役割は益々重要になってくるであろう。

(3) コミュニティ活動

西郷校区のコミュニティの推進を図り、住みよい町づくりを進める目的で、昭和55年(1980)にコミュニティ推進運営委員会が発足した。この会にはコミュニティ意識高揚・ふれあい・住みよい環境づくり・文化教養活動部会が設けられ、社会教育委員長の下でそれぞれが活動している。具体的には子供達の下校時の防犯パトロール、PTA活動の紹介、防火パトロールと啓蒙、多数ある遺跡の紹介等がある。

(4) 伝統芸能の継承(雅楽)

中山町で雅楽の奏楽を始めたのは大正2年(1913)頃で、楽器を購入し青壮年達が吉田神社の宮司、水谷氏を師とし練習を始めた。後継者の養成、楽器・衣装の補充をしつつ今日に至っている。大蔵神社の祭礼・葬儀等で奏楽されており、近隣に無い伝統的な芸能なので新規加入者を募りながら奏楽の練習を続けている。



雅楽の奏楽

(5) 納涼祭り

平成2年頃まで各町の青年団が盆踊りを主催していたが、団員の減少等により廃止され現在に至っている。盆踊りは校庭にやぐらを組み、その上で太鼓・音楽を流し子供も大人も楽しみにしていた。また帰省客も楽しみにしていた。

平成16年(2004)より、盆踊りの復活(平成18年)に向け、関係者で協議が続けられている。



盆踊り

(6) 交通安全

市民交通安全運動(年4回実施)に各町の総代が関係者を動員し、通学路の交差点や小学校正門前で立番をして、登校児童の交通安全確保と指導に努めている。また、校区内の要所に交通安全標識の設置を行い、通行者や運転者に注意を呼びかけている。



交通安全運動

(7) 青少年健全育成活動

「西郷校区青少年健全育成会」は校区民の青少年健全育成に関する意識高揚・健全育成のための円滑な推進を図る事を目的として設置されている。

当初から夏休み前に危険箇所の点検や注意札の設置等を行ってきたが、近年子供達を取巻く環境が悪化しており、各町役員等で小学生の下校時間帯に通学路を主としてパトロールをしている。



防犯パトロール

中学校区でも、各校区の総代会長・各種団体・小学校・中学校の教師が参加して、校区内に居住する青少年の健全な育成と事故防止活動を行なっている。

(8) 防火・防犯活動

各町消防団により年末特別警戒を実施している。

また、火災予防週間や毎月19日の防火の日に、消防団が各町内をパトロールしている。

(9) 防災訓練

一部の町では実施されていたが、平成11年(1999)より校区全体で訓練を実施している。会場は西川芸能練習場・萩平公民館か平野公民館を使用し、地震災害対応の講話・救急医療・初期消火訓練等を行なっている。



防災訓練 (なまず号体験)

(10) 530運動

昭和44年(1969)、「豊橋自然歩道推進協議会」が結成され、4年の歳月をかけて自然歩道が完成した。ところがゴミが多くなり、「自分のゴミは自分で持ち帰りましょう。」の合言葉が提唱された。これがきっかけとなり、昭和50年7月に「530運動推進連絡会」が設立され、5月30日前後と11月11日の市民の日前後に、各種団体が参加して実践活動をしているが、当校区では老人クラブが主体となって実施している町もある。

昭和54年3月には全国組織の「530運動総連合」が設立された。豊橋市は当運動の草分け的存在である。

(11) 敬老会

敬老会は75歳以上を対象に各町ごとに町役員・婦人会等が協力して記念写真撮影・会食・余興・懇談等を実施している。

第3章 教育と文化

1 学校教育、保育

(1) 小学校

① 寺子屋の教育

江戸時代の政治は「民をして依らしむべし。知らしむべからず。」(上の人言うことを守っていればいい。)と言うものであった。従って百姓には学問はいらぬというので、農民の大部分は勉強をする機会も与えられていなかった。

ところが、江戸時代の終わりに近くなると、一般の庶民にも勉強する機会が開かれてきた。主にお寺で和尚さんから勉強を教えていただくことが多く、寺子屋といわれた。

寺子屋では、先生は師匠、生徒は筆子とか寺子と呼ばれていた。師匠を務めた人は、僧侶が多かったようだが、武士や神官・庄屋などもいて、必ずしも決まった身分の人ではなかった。寺子屋で勉強した子どもたちは、7、8歳から11、12歳頃までの子どもたちであった。勉強内容は、「読み・書き・そろばん」が中心で、あいさつや座り方など、しつけ教育も行われていた。読み書きでは、「往来物」といわれる寺子屋用の書物が多く使われ、手習い(毛筆習字)をしながら文字を読むことを通し、庶民の日常生活や、生活に必要な知識・技術を習得していった。

幕末のころ西郷には14カ所の寺子屋があったと記録されている。

② 西郷小学校の創立

西郷小学校は、明治5年(1872)4月28日に西郷学校として萩平村の竜泉寺に創立され、

翌6年には義校と改名された。

ところで、政府は明治5年8月に学制を發布し、「必ず^{むら}邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめんことを期す。」として小学校の義務制を打ち出した。これは全国を8つの大学区に分け、1大学区は32の中学区とし、1中学区に210の小学区をおき、それぞれに中学校・小学校をつくらんとするものであった。

愛知県は第2大学区に入れられており、その中で八名郡は第9中学区となり、西郷には、第91(入文・成沢)、第92(馬越・平野・中野田新田)、第93(西川)、第94(萩平・中山)の4つの小学区が計画されたが、直ちに4つの小学校を造るのは困難であったため、明治6年に4つの小学区を統合して、第36番小学西郷学校が誕生した。学校は萩平村の竜泉寺内に置かれ、児童数は石巻村誌によると104名(県教育史には72名)と記載されている。

新しく発足した学校といっても、竜泉寺の建物を仮校舎にただけで、お寺の玄関に看板を掲げただけのものであった。明治7年にはお寺の庭に、校旗を掲げたといわれている。

小学校の授業料は、開校当時月50銭で、当時の労働者一人の平均収入が月1円70銭であったから、とても高く、庶民の子どもは義務制といってもまだまだ学校に行ける状態ではなく、就学率は明治5年には28%という状況だった。

③ 戦前の西郷小学校

明治9年(1876)に萩平学校と改名する。それと同時に、成沢の受洞院を借りて、成沢分校を開校し、中山には中山分校が開校する。

明治12年(1879)に八名郡第23番小学萩平学校と改名し、中山分校は第22番小学中山学校として、成沢分校は第24番小学成沢学校として独立した。

明治16年(1883)には、第20番学区公立小学萩平学校と名前を変えた。この時、中山地区は第21番学区、成沢地区は馬越地区と合わせて第22番学区となった。

同年4月、萩平学校は萩平村字城脇に校舎を建築した。沿革史には「敷地360坪、家屋146坪、教室6個にて教授せり」と書かれている。

明治23年(1890)には、尋常小学萩平学校と名称変更し、この時、中山・馬越の2校が廃止となったが、3か月後には馬越は分校として再スタートした。

明治25年(1892)には、萩平学校を西郷尋常小学校と改名した。また、馬越分教場が認可されている。「西郷のむかし話」という本には次のように記されている。

馬越分教場

馬越分教場は、初坂をこえた馬越よりの山の中にありました。学校は明治15年ごろできたらしいのですが、西郷小学校の分教場となったのは、明治25年のことです。小野田・馬越の1、2年生(はじめは4年生まで)がここで勉強し、大きい子は西郷小学校まで通いました。

分教場は3教室と職員室・湯わかし場・便所があっただけでした。玄関の前にはかめにそっくりの「亀松」があったそうです。

分教場は大正の終わりごろなくなり、建物は小野田の保寿寺に移されたが、今はもう残っていない。

明治34年(1901)には、高等科を併置し、八名郡西郷尋常高等小学校と改名した。就学

年数の増加に伴い、校舎拡張に迫られ、西郷村議会は校舎建築を決議した。

翌35年、西郷村大字萩平字城脇の現在地に校舎を建設する。西郷小学校の沿革史によると、敷地2,160坪(7,140㎡)、家屋399坪(1,319㎡)、付属地250坪(826㎡)であった。

明治37年(1904)、馬越分教場は、尋常4年までが学習していたが、1、2年のみが学習することとなる。

明治39年(1906)、石巻村の誕生により、八名郡石巻村西郷尋常高等小学校と改名する。

大正14年(1925)、馬越地区は西郷学区から離れて玉川学区に編入し、馬越分教場で授業を受けていた小野田地区の尋常科1、2学年児童は、本校に通学することとなった。これによって8学級編成となった。

昭和8年(1933)、奉安殿が建築された。

昭和16年(1941)、国民学校令が公布され、西郷国民学校と改名された。国民学校における教育は、「皇国の道に帰一」することを目的に、軍国主義の色彩が極めて濃いものとなっていたが、同年12月の太平洋戦争の開戦とともに一層戦時色が強まっていった。

敗戦の色が濃くなった昭和20年(1945)3月には、国民学校高等科児童に対しても学徒動員が実施され、4月1日からは初等科を除く児童生徒の授業が停止された。5月には、本土決戦に備えた「戦時教育令」が公布され、各学校ごとに国民学校学徒隊が結成された。校舎は本土決戦準備のために駐留した軍隊の兵舎などに利用された。また運動場は食糧不足を補うためにサツマイモ畑に変えられた。

教育も戦争を支え、戦場に子どもたちを駆り立て、多くの尊い生命が失われる結果を招いたことを決して忘れてはならない。

④ 戦後の西郷小学校

戦後の西郷小学校の教育を語るとき、戦争によって疲弊した教育環境整備と、質の高い

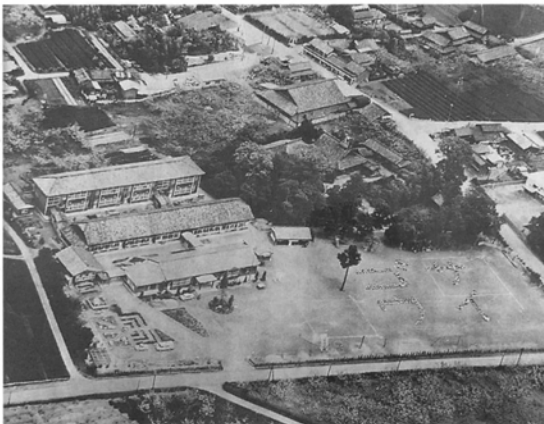
教育を追求することが課題であった。

校舎建築のあゆみ 西郷国民学校は、昭和22年（1947）4月より八名郡石巻村立西郷小学校と改名し、戦後教育に励むことになる。また、新学制（6・3・3制）が施行され、高等科は廃止された。このため、6年修了後は石巻村立石巻中学校に入学し、義務教育9か年を修了することとなった。石巻中学校が開校したが、校舎不足のために昭和23年までは分教場が竜泉寺に置かれ、中学生はここで学んでいた。

昭和30年3月、石巻村は町村合併で豊橋市に編入され、豊橋市立西郷小学校が誕生し、4月1日には町村合併祝賀旗行列が実施された。この時点をもって新生西郷小学校建設の礎が完成し、これ以後、校舎をはじめとする環境整備が急ピッチで進められた。

○第1期：新木造校舎建築（昭和32～37年）

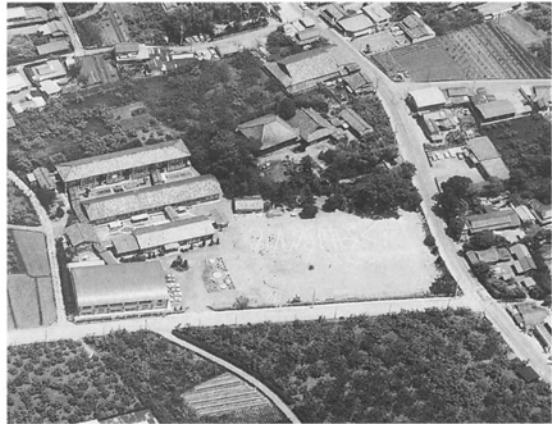
戦前から使われてきた木造平屋3棟の校舎を木造2階建て校舎を含む3棟に建て替え、それまで県道側に正門を配置し東向きに建っていた校舎を、現在のように南向きに配置し、正門を現在位置に変更した。このため校舎前に立っていた大王松は運動場の真ん中にそびえ立つことになった。



昭和40年（1965）

○第2期：付属施設の充実（昭和39～51年）

昭和39年	岩石園・栽培園・庭池完成
40年	小鳥・鶏・ウサギ小屋完成
41年	温室完成
44年	運動場中央の大王松伐採 忠魂碑を竜泉寺地内より校庭に移転
47年	体育館竣工
51年	プール竣工



昭和47年（1972）

○第3期：鉄筋校舎建築（昭和53～平成8年）

昭和53年	第3棟取り壊し、普通教室3・階段・水汲み場・足洗い場竣工
54年	普通教室6・児童便所3竣工
55年	理科・音楽・図工室・給食配膳室・クラブハウス竣工
57年	管理棟1階・国旗掲揚塔竣工 体育倉庫移転
平成3年	運動場整備
5年	管理棟西3階（家庭科室・図書室）竣工、視聴覚室改築、焼却炉新設
8年	大型遊具竣工



昭和55年（1980）

理科研究をととして学校づくり 新校舎が誕生し、教育環境が整った昭和39年（1964）、2年間の理科教育研究指定を受ける。PTAと校区役員が一体となって岩石園や栽培園、標本づくりなどに取り組む一方、市の援助を受け飼育小屋や温室、観察池などの施設を設置してきた。これらの充実した施設設備を使った授業実践は大成功を収め、職員の研究熱はそれ以後も燃えさかり、創立100周年にあたる昭和47年度には、理科教育の第一人者である東京学芸大学附属小の荻須正義先生を招いて研究発表会を実施した。

昭和39年	理科の研究指定校に委嘱される
41年	テレビ3台設置し、教育放送を使った授業にも着手、研究発表会実施
42年	鈴木栄氏から図書を寄贈される
44年	ソニー理科教育振興資金入賞佳作
45年	学研教育賞受賞
46年	ソニー理科教育振興資金入賞優秀賞 豊橋文化協会奨励賞受賞
48年	荻須正義先生を招き研究発表会開催

研究発表会に参加した教員からは多数の礼状が届いた。以下はその1通である。

自作の教具が多かったことや土地の教材一つ一つが児童に即したものであり、児童の学習ぶりや受け答えの態度、児童ひとりひとりにしみ通るような、そしてまた根強くその反応を待たれる師弟一如の姿を見せていただき大変強く心を打たれました。

そして、学習・自然の環境がよく整備された中で学ぶ子どもたちの幸せをしみじみ感じさせられました。

コネタが結ぶ交流の輪 昭和2年（1927）4月21日、西郷尋常高等小学校にもアメリカから青い目の人形がやって来た。名前をコネタといった。

世界的な経済不況が深まりつつあった当時、日本とアメリカは互いに反目するようになりつつあった。親日家の牧師シドニー・ルイス・ギュリック博士は両国の文化的理解が欠けているからと考え、子供のうちから国際理解の芽を育てようと考え、ひな祭りという日本の伝統行事に合わせ、アメリカの子供が友情の思いを込めた人形を贈ろうと全米各地に呼びかけた。その結果、アメリカ全土から260万人もの子供たちの善意のお金と作業によって12,739体もの親善大使が海を越えてやって来た。



歓迎風景

日本全土で大歓迎され、西郷小学校でもひな人形と一緒に飾られ大切にされていた。しかし、昭和16年（1941）ついに戦争に突入。「戦争に勝ち抜くためには、敵を憎み相手をやっつける覚悟を持て。」と子供たちは教えられ、敵国の人形は壊してしまうように命令が出された。多くの人形が壊されていく中、西郷小学校では稲垣学先生が「人形に罪はない。」と隠しておいた。戦争が終わって40年もたった昭和60年、西郷小学校に保存されて

いることが発見された。これをきっかけにワパコネタ市やノースリッジ小学校と学校・地域をあげた交流が続いており、ギュリック博士の心が今もこの地に受け継がれていることを大切にしたい。主な交流年譜は以下のようである。

- | | |
|------|--|
| 昭和2年 | コネタ到着。愛知県には349体 |
| 19年 | 焼却命令、稲垣先生自宅蔵に隠す
出征に伴い学校の戸棚に移す |
| 60年 | 戸棚の中から発見され、公表する |
| 62年 | 故郷ワパコネタ市で里帰りの声
上がる |
| 平成2年 | P T A里帰り基金づくりに着手 |
| 5年 | 6年が学芸会で劇を上演 |
| 7年 | ギュリック三世より新人形クリ
スティーナ受領。コネタを里
帰りさせる西郷の会発足 |
| 8年 | ワパコネタ市訪問、コネタ里帰り
する。この時ノースリッジ小学校
と姉妹校提携。コネタの会発足
アメリカより来豊団、コネタ戻る
新人形エレノア受領 |
| 12年 | コネタ修理、レプリカ2体作成 |
| 13年 | ノースリッジ小学校職員来豊、
レプリカ贈呈 |
| 16年 | マイケル・ターナー氏来校 |
- ※姉妹提携後、毎年作品交流継続



青い目の人形3姉妹

(2) 保育園

① 沿革

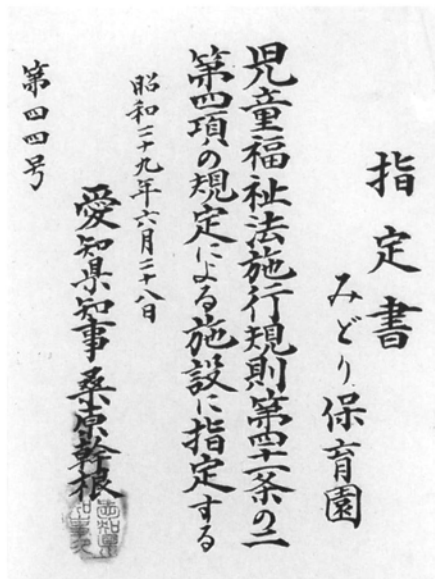
昭和26年(1951)4月、萩平公民館(石巻村大字萩平字城脇160)に、館長夏目武雄を園長とし、主任の井原幸子と保母1名の3名で私立「みどり保育園」が設立された。

最初の在園児数は32名であったが、戦後のベビーブームにより翌27年には52名、28年には112名と急増した。



萩平公民館での記念写真(昭和26年)

昭和29年6月に児童福祉施設として、愛知県から認可があり、定員120名となった。その頃、西川芸能練習場を分園として、44年頃まで利用した。



認可書

昭和30年（1955）3月、石巻村が豊橋市に編入され、園の経営主体も西郷校区みどり保育園運営委員会となった。

昭和35年に西郷小学校が改築されたのでその古材を利用して平野町の現在地に園舎を建設し、萩平公民館から移転した。



木造園舎（昭和35年）



鉄筋園舎（昭和53年）

昭和42年（1967）4月には、運営主体が社会福祉法人豊橋市社会福祉協議会となった。

昭和45年10月、社会福祉法人豊橋市北部保育事業会が設立され、経営主体も変更されて保育園も新しい歩みを始めた。

昭和50年、園舎の老朽化が進んだため、建設に向けて校区民が連署をもって行政に陳情した結果、昭和53年12月、現在の鉄筋園舎が

建設された。しかし、昭和57年までは遊戯室が無く、西川芸能練習場でお遊戯会等を行い、不自由な思いをしてきたが、校区民の努力によって念願の遊戯室が昭和58年に完成し、保育環境が一層整備された。

当地域は地下水に乏しく、飲料水については、井戸水を使っていた為、冬季など枯渇して水不足になることに加え、畜産業が盛んになり、保健衛生の面からも上水道敷設が必要になってきた。市に陳情書を提出し、昭和54年には貯水槽を利用した新鮮水が飲めるようになった。さらに、プールが設置されたことなど、使用水量が増加してきたため、市の水道本管に直結するよう行政に陳情して実現した。

② 保育の変遷

保育 開設当初の保育は、忙しい農家に代わって子どもを預かっていたため、登園は小学生と一緒に、降園は保母が送っていた。遊びは園庭が無かったので隣の竜泉寺の境内を使っていた。木登りをしたり、鬼ごっこ・かごめ・花いちもんめ・ちゃんばらごっこ等、手作りの遊びを工夫して遊んでいた。一日を楽しく過ごす日々の保育であった。時の流れによって保育内容も徐々に変わってきたが、特に高度経済成長の波は、社会を豊かにした反面、子ども達の育つ環境が大きく変化し、育てにくい社会になってきた。

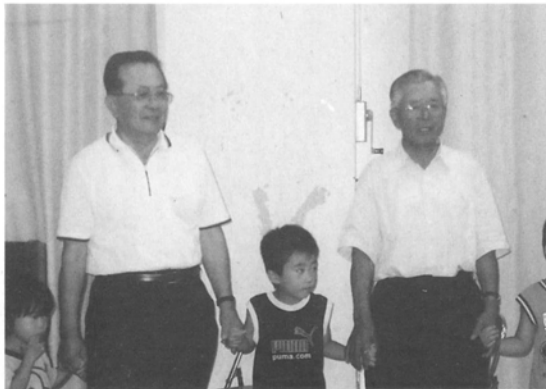
核家族が増えたことに伴い、人と人との触れ合いが希薄になり、家庭や地域の中で孤立し、育児に対する不安を抱く家庭が増加した。こうした背景を踏まえて、国は平成6年（1994）に子育て支援事業として「エンゼルプラン」を発表した。

今まで保育園は、在園児の集団保育のみに専念してきたが、いま求められていることは専門施設としての知識と経験をいかすことで

ある。保育園が核になり、地域・家庭との連携の中でみんなで育てあい、育児のパートナーとして地域に根ざした開かれた園となり、地域住民が気軽に利用することのできる保育園として機能を果たしていくことである。その一環として現在、育児相談・園庭開放・一時保育・延長保育・いきいき交流事業（老人会との交流）・特別保育事業（子育て講座・親子遊び）を行なっている。

老人会との交流では、地域の知恵を知り、伝承するため、昔の遊びやお話、芋の栽培や収穫まで等、年5回の触れ合いを行なっている。

また、特別保育事業では地域の学識経験者を講師に迎え、保育園に入園していない幼児を持つ家庭と、在園児家庭を対象として年4回の育児講座を行っている。親子遊びでは、専門家を招いて手作りおもちゃ作りやプール遊び、リズム遊びなどを通して、子どもと遊ぶ楽しさや愛おしさを感じる事業を展開している。



老人会との交流風景

給食 初期の給食は家から主食として弁当箱にごはんを詰めて持っていき、惣菜は自分の家で取れた野菜を保育園に持ち寄って調理をしていたため、毎日みそ汁主体の献立が続いた。現在は、栄養士による統一献立で調理し、

おいしくて栄養のバランスの取れた給食を食べている。

平成16年（2004）、厚生労働省が保育所における食育に関する指針を発表した。朝食を食べずに登園する子、栄養の偏り、肥満、個食等が増え、子どもたちの心と身体の健康問題の悪化を指摘した。

みどり保育園としても次代を担う子どもが心身とも健やかに生きる力をつけるため、園庭の花壇での野菜作りや、小動物の飼育などを平成16年からはじめた。小動物と触れ合い、飼育することで愛着を持ち、餌を与える、掃除をする、触れて見るなどの体験から、命あるものを大切にしていくことに気付かせている。

また、野菜の栽培を通して種まき・植付け・水やり・草取り・収穫作業を経験する中で、世話をしないと育たないことを、体験の中から感じとらせている。食べるだけでなく、野菜の生長を親子で観察したり、会話を弾ませ、ともに成長を感じ取っている。また、これらの経験の中で、学ぶことの楽しさが意欲となり、ものの尊さや不思議さに気付き、友だちと関わる力、すべての生き物の命を大切に作る心を育てている。



野菜づくり

めざす保育園 平成16年、少子化に伴い定員数を70名に改めた。少子高齢化が進む中で、子育て専門施設として、人と人とのつながりの輪を広げ、保護者だけでなく、地域と密接な関係の中で子ども達の健やかな成長のため、様々なニーズに応えられる育児のエキスパートとなっていくことが、保育園の役割である。

2 社会教育

戦前の社会教育は、国威発揚・戦争遂行のために、国民意識の高揚に果たした役割が大きかった。

戦後間もない昭和22年から23年にかけて、これを改め、住みよい町づくり、文化的な市民生活の再建、民主主義の定着などを目的として、全国的な動きに先立って、豊橋市ではいち早く校区社会教育委員会の結成がすすんだ。

この校区社会教育委員会は、豊橋市独自の組織で、法律に規定されたものでも、市の支配を受けるものでもなく、委員及び役員は選挙・推薦・互選等により民主的に選出されている。組織・運営も民主的であり、明るい住み良い地域社会の建設、市民意識の高揚をはかるため、校区民を対象として、社会教育全般についての指導と事業を進めている。

成人教育 校区社会教育委員会の活動の中で重要な事業のひとつが成人式の開催である。

昭和23年（1948）制定の新憲法で、20歳になると参政権が与えられた。これを祝って「成人の日」が制定され、翌24年1月15日に、第1回の成人式が校区社会教育委員会が主催して開催された。

昭和36年に市体育館が完成したのを機に、翌37年から全市の新成人を一堂に集めて、市

の事業として成人式を行なってきたが、年々新成人が増加すると共に、成人式に対する意識の多様化などにより、一堂に会しての開催が困難になったため、昭和45年から再び校区社会教育委員会が、校区ごとに地域の特色を生かした成人式を主催するようになった。

現在は石巻中学校区内の5つの社会教育委員会の共催で実施している。



成人式（石巻中学校区）

施設見学会 校区社会教育委員会のもうひとつの事業に施設見学会がある。

市では、市民に市政への理解を深めてもらい、意見を聴くことなどを目的に、施設見学会を実施しているが、この事業に校区として参加している。資源化センターや下水処理場・豊橋港など、これまで多くの公共施設を見学している。



豊橋港見学（愛知県三河港務所にて）

3 社寺と史跡

(1) 神社

明治のはじめ（1868）、新政府は神様と仏様とを区別して、お宮に祭られていた仏像や仏具をとり除かせて、仏教に関係した神社名を改めるよう命令した（神仏分離令）。その結果つぎのように神社名が改められた。

日吉山王権現 → 日吉神社 萩平村
 薬師堂 → 医神社 中山村
 午頭天王宮 → 素盞鳴神社 西川村
 午頭天王社 → 素盞鳴神社 小野田村



日吉神社（山王社の祭礼幟）



神明社（平野町）

また、太平洋戦争が終わるまで、神社の社格を「郷社・村社・無格社」などとランクづけしていたものを、戦後は「〇級社」と呼ぶようになり、校区の神社はつぎのように改められた。

12級社	大蔵神社（末社2） 祭神：伊邪那岐命、伊邪那美命	中山町
15級社	諏訪神社 祭神：建御名方命	中山町
15級社	医神社 祭神：少彦名命	〃
9級社	日吉神社（末社4） 祭神：大山咋命	萩平町
12級社	神明社（末社1） 祭神：天照大神	平野町
12級社	素盞鳴神社（末社2） 祭神：速須佐男命	西川町
12級社	素盞鳴神社 祭神：素盞鳴命	小野田町
15級社	黒谷神社 祭神：罔象女命	〃

上記のお宮には末社（境内社）として祭られている社が合わせて9社ほどある。

明治5年（1872）に「一村一社制」が布かれたことにより、当時日吉神社の氏子であった平野村の人たちは、村内に氏神様を祭るためにたいへんな苦勞を重ね、20年後の明治26年（1893）、ようやく牛川に祭られていた神明社を現在地へ遷座することができた。

校区に祭られているこれらの神社は、おおむね春秋の2回祭礼をおこなって、町民（氏子）たちの健康・安全を祈るほか、春は農作物の豊作を祈り、秋はその収穫を神様に感謝しながらにぎやかに余興などを行なっている。

(2) 寺院

いま校区には正宗寺（嵩山町）の末寺が7寺、真言宗の寺が1寺（宝王院）あるが、す

べて無住（僧侶が不在）である。

- | | | | |
|-----|-----|--------|------|
| 臨濟宗 | 蓮華山 | 菩提寺 | 中山町 |
| | 本尊： | 観世音菩薩 | |
| 〃 | 雲洞山 | 竜泉寺 | 萩平町 |
| | 本尊： | 千手観音菩薩 | |
| 〃 | 禅源山 | 悟本寺 | 平野町 |
| | 本尊： | 聖観音菩薩 | |
| 〃 | 分明山 | 西河寺 | 西川町 |
| | 本尊： | 観世音菩薩 | |
| 〃 | 清水山 | 大福寺 | 〃 |
| | 本尊： | 阿弥陀如来 | |
| 〃 | 延年山 | 保寿寺 | 小野田町 |
| | 本尊： | 釈迦如来 | |
| 〃 | 瑠璃山 | 受洞寺 | 〃 |
| | 本尊： | 薬師如来 | |
| 真言宗 | 火鎮山 | 宝王院 | 西川町 |
| | 本尊： | 不動明王 | |

これらの寺院について、大きなできごとを拾ってみると、まず菩提寺と竜泉寺が挙げられる。

両寺は明治初年の^{はいぶつきしゃく}廃仏毀釈運動の影響をまともに受けて、中山村49戸のうち42戸（86%）、萩平村の89戸（100%）が神道に改宗した結果、^{だんか}檀家のほとんどを失い、衰退の一途をたどってきた。



菩提寺（中山町）



竜泉寺（萩平町）

明治5年（1872）、学制が公布されて小学校が義務教育として発足した結果、翌6年から竜泉寺の建物を借りて「西郷学校」が開設した。

明治21年（1888）、中山・萩平・平野・西川・小野田・馬越の各村が合併して西郷村ができたとき、村役場を平野の悟本寺において、石巻村ができるまでの17年間、行政がおこなわれた。

小野田の保寿寺には山本^{かんすけ}勘助（武田信玄の軍師）が使用したという茶釜が伝えられており、現在は嵩山の正宗寺に保存されている。



山本勘助の茶釜

校区全部のお寺にとっての受難は、太平洋戦争中の昭和17年（1942）に行なわれた金属回収令であろう。その結果、銅や鉄などの金

属でできた仏具をはじめ家具類・釣鐘までも供出させられてしまった。また、戦争がはげしくなると本土決戦準備のために西郷校区にも軍隊がきて、それぞれのお寺やお宮に数十人から数百人の兵隊が分かれて駐留した。

(3) 史跡

古墳

西郷校区は市内で古墳が最も多い地域であり、判明しているだけでも百数十基は存在していたと記録されている。しかし、現在そのほとんどは開墾や土地改良事業等のために破壊されてしまい、墳丘や石室が残っている主な古墳は次の数基に過ぎない。

① 狐塚（王塚） 平野町字奥原35

間川の左岸台地にある前方後円墳。帆立貝形ともいわれ、全長35m（後円部20m前方部15m）。6世紀に造られ、後円部に横穴式の石室があるが、内部はほとんど土に埋まっているため、石室内を見ることはできない。

② 段塚・姫塚 西川町字北之谷55

ふたつ並んだ夫婦塚で、津田善功さん宅の裏にある。いずれも6世紀末～7世紀前半のもので径21～24mの円墳。

段塚は墳丘に2重の石列が並んで段築状となっている。石室からは金銅装の双竜環頭大刀をはじめ、金環十数個、各種の玉類多数と土器などが出土した。

姫塚は段塚の西にあり、2重の石列が並んでいる。石室は横穴式で玄門部に前壁（立柱）を持っている。金環・銅碗・大刀・鉄鍬・玉類・石製の紡錘車・土器などが出土した。

③ 九太夫塚（上地1号墳） 西川町字上地12の3

上地公民館から西方約200mの道路下にある。石室の前半部が失われているが、奥の半分が残っており巨大な天井石や奥壁の石に驚かされる。いつごろ造られたのかははっきりしない。道路に近く自由に出入りができるので

見学には好都合である。

④ 向山1号墳 西川町字向山11の1

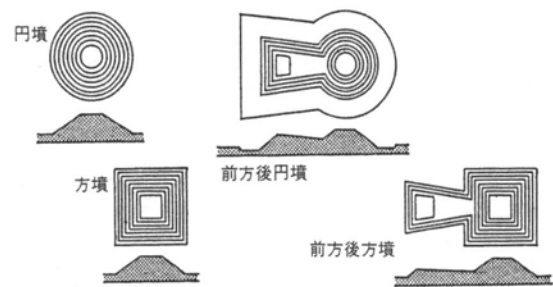
6世紀ごろに造られた前方後円墳。全長43m、後円部の直径26m、高さ4m強。富田三長さん前の「行者さま」が祭ってあるところに造られている。

⑤ 北長尾8号墳 西川町字向山8の1

向山1号墳の南方、中電鉄塔が建っている標高88mの山頂にある。6世紀ごろに造られたと推定され全長30mのこの地方では最も小さい前方後方墳で未発掘である。

⑥ 茶臼山1号墳 小野田町字下切田

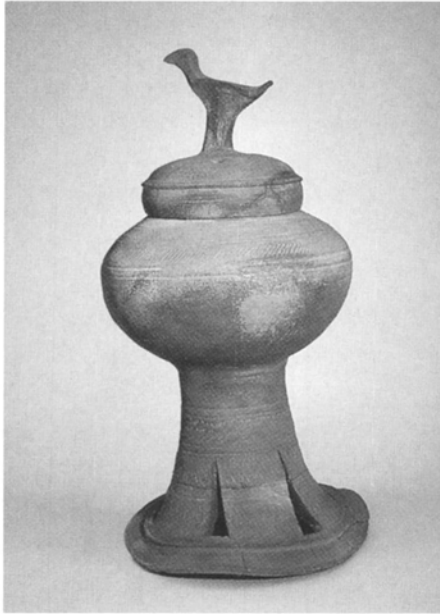
標高80mほどの丘陵の尾根に築かれた全長54mの5世紀ごろに造られた前方後方墳で、前方部は長大な「ばち形」をしている。古墳の西隣には小屋があるので目じるしとなって都合がよい。



古墳のかたちのいろいろ



環頭大刀柄頭（段塚出土）



鳥紐蓋付脚付短頸壺（寺西1号墳）

太陽寺跡 中山町字太陽寺跡

「白星山 太陽寺」は天台宗のお寺で、平安時代の終わり頃には16の坊舎をもつ大寺院であったと伝えられている。しかし、2度にわたる火災と、新興臨済宗の勢力などの影響で復旧の力を失い廃退したものと思われる。

現在は医神社の左後方の山腹に3段からなる平地が残っているが、神社の南から西方にかけて「太陽寺跡・太陽寺前・大門」などの小字名が地名として残り、わずかに昔の名残をとどめているに過ぎない。

城跡

校区に残されている城跡は、すべて戦国時代に嵩山や西郷で勢力を誇っていた豪族、西郷氏によって築かれたものである。以下に記すもののほか弾正・堂山・諏訪東・諏訪西などの砦跡があるが省略する。

① 五葉城 新城市富岡字南川

豊川用水の大原調整池（五葉湖）から南方を望む山頂（標高348m）にあり、鶴田碎石（中山町）北の山の尾根を富岡方面へ数百メートル歩いたところに位置している。城跡に

は大きな看板が建てられ、新城市の文化財に指定されている。

② 高城砦 中山町字彈正城跡

五葉城から南東方向へ尾根を登った中腹にあり、五葉城よりも35m高いところ（標高383m）に曲輪・堀・土塁が残されている。野田の戦いで城主菅沼定盈が西郷へ退いたとき、仮住まいしたと伝えられる。砦の規模は小さい。

③ 五本松城 中山町字城屋敷

西郷弾正左衛門正勝が築城して本拠にしたと伝えられるが、城というより相当大きな館であったと言う方が適当ではないか。正勝は徳川2代将軍秀忠の生母お愛の方（西郷の局）の外祖父にあたる。

昭和58年（1983）、市の教育委員会が建てた「五本松城址」の標柱がわずかに昔をしのばせているだけである。

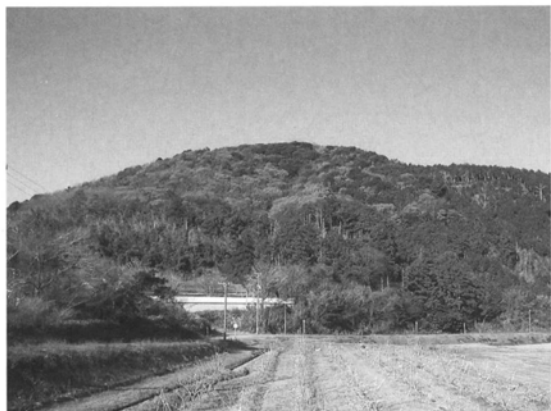


五本松城址（中山町）

④ 鷹打砦（萩平城） 萩平町字城山

中山町への入り口、山が狭まった右側のお碗を伏せたような山（標高154m）の山頂にある。いま残っている曲輪・堀・土塁などの保存状態もよく、本城の五本松城を守る支城（砦）としての要所であることがうかがえる。

現在、山頂には秋葉神社が祭られており、山すそ一帯の地名を城下・城脇という。



鷹打砦 (中山町から)

⑤ 西川城 西川町字城山

西郷小学校前から賀茂町へ行く途中に大福寺がある。その寺を含めた裏一帯が城跡で、永禄5年(1562)ごろ西郷正勝の2男清員が築城したという。寛文3年(1663)に吉田城主小笠原忠知の4男外記長秋が30年あまりここに陣屋をおいた。

現在「かたくり」の群生地として観光の名所になっている。



西川城 (西川町)

文化財

① 大蔵神社の雨乞面 中山町

「万治2年(1659)12月」と墨書された面箱に保存されている4面(尉面と翁面3)は、むかし田楽などの神事に使われていたものと思われる。色などがはげ落ちているうえ破損

もみられるが、室町時代頃の作と考えられ、能面が定型化する頃の面として研究上貴重なものである。昭和42年(1967)、市の有形文化財に指定された。



尉



翁



翁



翁

大蔵神社の雨乞面 (中山町)

② 日吉神社の雨乞面^{あまごいめん} 萩平町

面箱には「奉寄進 宝永7年(1710)5月15日 西郷氏元安」と記されている。面は「蛇^{じや}・渴食^{かつしき}・中將^{ちゆうしやう}・姥^{うば}・小ジカミ」の5面で、姥面には「誓順作^{せいじゆん}」とある。

これらの面は雨乞神事を考えるうえで貴重であるとして、昭和42年(1967)、市の有形文化財として指定された。



蛇



渴食



中將



姥

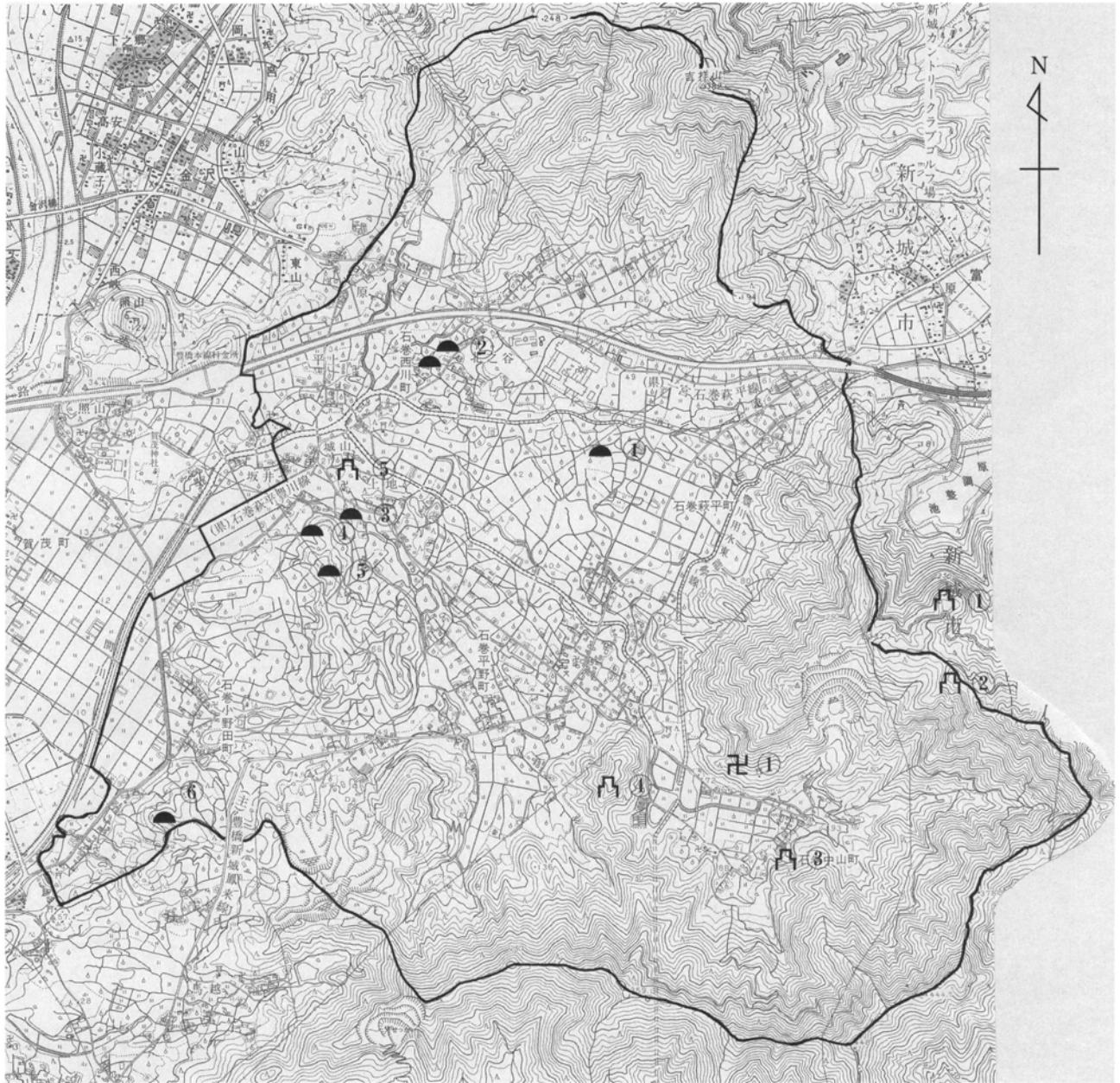


小ジカミ

昭和2年7月 雨乞日誌 日吉神社

- 7月15日 此日ハ朝ヨリ雨乞ヲナシ社掌来ル、総社参リヲナシ
1夜籠リヲナス
- 17日 此日ハ2夜3日ノ初願ヲナシ大本社司及ビ社掌夏目氏来リ11時社司祝詞ヲ奉ル 次デ月次祭ノ祝詞ヲ奉ル 午後ヨリ各組代表者ニテ午前、午後、夜間3回交代ニテ詰メ通ス 氏子総代ハ2名ニテ1昼夜^(ママ)持キニテ執行セリ 社掌ハ泊ル 此日氏子総代ハ茂作、長七ノ兩人
- 18日 此日ハ社掌ト夏目ト兩人ニテ3回執行セリ 此日夕方迄氏子総代茂作 長七ノ兩人 夜ニ至リ摺五郎 猪平ノ兩人
- 19日 此日ハ2夜3日ノ満座ニテ 晩方総社参リヲナス
- 20日 此日ヨリ蔭祈願ヲナス 総社参リヲナス
- 21日 同上
- 22日 同上 満座
- 23日 此日ヨリ2夜3日ノ再願ヲナス 朝総社参リ 社掌来ル 午後ヨリ前同様ニテ勤ム 氏子総代長七 猪平ノ兩人
- 24日 此日モ前同様ニテ社掌 夏目氏ノ兩人ニテ勤ム 氏子総代正午ニテ茂作 摺五郎ノ兩人 此夜ハ小雨アリ
- 25日 此日ハ前夜ヨリ降雨アリタルガ故ニ朝ヨリノ総社参リヲナシ 社掌兩祝ノ祝詞ヲ奉ジ雨乞ヲ打切りタリ

史跡地図



凡		例			
古墳	● ①	狐塚 (王塚)	寺跡 卍 ①	太陽寺跡	
	● ②	段塚・姫塚	城跡	凸 ①	五葉城
	● ③	九太夫塚 (上地1号墳)		凸 ②	高城砦
	● ④	向山1号墳		凸 ③	五本松城
	● ⑤	北長尾8号墳		凸 ④	鷹打砦 (萩平城)
	● ⑥	茶臼山1号墳		凸 ⑤	西川城

4 むかし話

きゅうりを作らない話 中山町

今から400年ほどむかし（寛永年間）のことです。まわりを山にかこまれた中山村に疫病が流行しはじめました。いまでいう赤痢などの伝染病です。

そのころの人びとは野菜も洗たく物も家の近くを流れる小川で洗いました。はえなど病気を運ぶ害虫もいっぱい飛んでいたため、病気はみるみるうちに広がり、昨日3人、今日は5人とバタバタ死んでいきました。近くに医者はいないし、よい薬もありません。

300人ほどいた村人がたったの43人になってしまいました。このままでは遠からず中山村は全滅してしまうでしょう。残った村人たちはみんなで神様にお願いすることにしました。

「どうか神様、おれたちの生活になくはならねえきゅうりを作らねえから、わるい病気をおらが村から追っ払ってくださいませ。」とたのみました。やがて神様のごりやくでしょうか、疫病の流行はおさまりました。

それから何十年かたって、村人たちは神様との約束を破って1人・2人ときゅうりを作りはじめました。百姓のくらしにどうしてもほしい野菜だからです。そこで初なりのきゅうりをまず天王様へ献上し、その後のできたものを、おさがりとして食べるならわしとなりました。

今ではほとんどの家できゅうりを作りますが、一部の家では400年前の神様との約束を守っているといえます。

中山峠 中山町

中山の東、静岡県との境にあるのが中山峠で、この道を鎌倉街道という人もあります。京都から鎌倉へ通じる道で、戦国時代には今

川義元や武田信玄の軍勢も通ったといいますが確かなことはわかりません。

大正の頃（90年前）までは遠州の秋葉神社や、奥山の半僧坊へお参りする信仰の道として、また遠州の方からも豊川稲荷や賀茂・一宮のお宮へ参る人々で随分にぎわいました。ふもとの中山だけでなく、峠には茶店もあって山の上まで荷車をひいて登ったといえます。

峠の南方には立岩という岩があります。昔弁慶がこの岩を持ち上げたところ、とても軽かったのものでその上に大きな岩をのせました。それから人びとが「のせ岩」とも呼んだと伝えられています。



中山村古図（中岳画）

込堂・かぶと 中山町

中山には「古見道」「かぶと貝津」という小字があります。

古見道はむかし「込堂」の漢字も使いました。これは戦国時代に西郷氏が駿河の今川氏と戦い、たくさんの戦死者を出し、その霊をとむらうために多くのお堂が建てられ、こみ

入って並んでいたのので「込み堂」と呼ばれたということです。

「かぶと」の名は、むかし原野を開墾して田畑をつくっているとき、土を盛った塚らしいものをみつけました。掘ってみると中からかぶとがたくさん出てきました。

戦死者のよろい、かぶとを1か所に集めて塚を造ったのだらうと思われます。それが「かぶと貝塚」の地名となって今も残っています。

太陽寺と祇園杉

中山町

むかし、中山に「白星山太陽寺」という天台宗（本山は京都の比叡山）の大きなお寺がありました。ご本尊さまは薬師如来という仏様で、鳳来寺のお薬師さまとは兄弟といわれ、中山峠を行き来する人をはじめ、遠くからわざわざお参りにくる人たちでにぎわっていました。

ところが、およそ700年まえ（1338）、火災のためにたくさんあった建物が焼失してしまいました。その後、大ぜいの人びとの努力で元どおり立派に再建されましたが、不運にも大永2年（1522）、またまた大火事に遭ってほとんどの建物が焼けてしまいました。

そのころから戦国時代といわれる世になって、日本中が戦いに明け暮れることになったためでしょうか、太陽寺は再建されることもなく、わずかに救い出されたお薬師さま（本尊）だけが、小さなお堂に入れられて村人たちに祭られてきました。

いま、萩平のお宮の近くに「大門」という地名が残っております。太陽寺が栄えたころに立派な門が造られ、門の中には仁王様がおいでになったようです。言い伝えによると、その仁王様が祇園杉の根元に埋められているということです。

祇園杉は日吉神社の東の方にある大木で、樹齢は500年以上になるだらうと思われます

が、残念なことに平成の初めに枯れてしまい現在は葉を落としたまま、枝を広げて立っています。祇園杉が元気だったころ、この美しく立派な杉の大木を買って、切らうと思った人が大ぜいいましたが、どの人もどの人も、みんな病気になって、とうとう切ることができなかつたといわれています。

この祇園杉だけは、大門のことも、仁王様のこともよく見ていて、本当のことを知っているだらうと思います。

雨ごいの面

萩平町

ある年の夏のことです。いく日もいく日も雨が降らなくて村の人たちは困ってしまいました。

「こう日照りが続いちゃあ作物が枯れちゃうぞん。」

「わしゃがのナスもキュウリも、もう枯れかかるとるに。水をかけえと思ってもどこにも水なんかありやせんでのん。」

「うちの田んぼにゃあ、ひびが入ってしまったに。」

村の人たちは、ギラギラ照りつける太陽をうらめしそうに眺めながらため息をついていました。そして日吉神社の神主さまに頼んで雨乞いの祝詞をあげてもらうことにしました。

祝詞が終わる頃、本殿の前で空を眺めていた人たちが、

「おおい、空が曇ってきたぞ。明日は雨だぞ」

とって喜びましたが、翌日の朝には曇っていた空も晴れ上がって、とうとう鎌喜びに終わってしまいました。その日の夜中に神様がねぎ様（神主さま）の夢まくらにお立ちになって、

「雨がほしかつたら、お宮のお面に雨乞いをせよ。」

とお告げになったのです。夜が明けると神主

さまは村のお役の衆に集まってもらい、神様のお告げを話しました。「それじゃあ」というので村中総出の雨ごいが行われました。

お宮の宝物殿から三方にのせられたお面がうやうやしく持ち出されて神前に供えられました。神主さまが雨ごいの祝詞をとなえているうちに空が曇ってきました。そして祝詞が終わるとポツポツ・パラパラと雨が降り出しました。

「雨だ！雨だ！雨が降り出したぞ！」

村人たちは躍りあがって喜びました。ポツポツ・パラパラは、やがてザアザアと本降りになってきました。男の人も女の人もずぶぬれになって家へ帰りましたが、雨にぬれてもだれ一人として文句をいう人はいませんでした。3日2晩降り続いた雨のおかげで枯れかかっていた茄子やきゅうりも生き返り、田んぼには水があふれて蛙たちもうれしそうに鳴き騒いでいました。

それから何年かたって、また長い日照りが続いて村中が苦しみました。神前に雨乞いのお面をもち出して祝詞をあげましたが、いっこうに雨は降りません。その夜、神様が神主さまの夢まくらにお立ちになって、

「大蔵神社（中山）の水をお面にかけよ。」と告げられました。

お告げのとおりになりますと、ポツポツと雨がふりはじめましたが、なかなか本降りになりません。そうこうしているうちに、乱暴者の五平が山王瀬（お宮の前の川）へお面を投げこみました。さあ大変。目も開けられないほどの大雨がいく日もいく日も降り続いて、たくさんの田や畑をおし流してしまいました。そして、五平の家も流されてしまいました。村人たちはこの大雨にこりて、それから後、雨乞いの面を大切にするようになりました。

おこし休みといぼとり観音 萩平町

萩平から中山へいく道が城山のふもとを通るところに高さ50cmほどの馬頭観音があります。だれが、いつ建てたのかわかりませんが「右嵩山道・左平山三ケ日道」とやっとな読みとれる道しるべをも兼ねています。

この観音様はいぼとり観音としてもご利益があります。松ポックリに糸をとおして輪をつくり、願かけをすると、いぼがポックリなくなるそうです。

また、ここが「おこし休み」ともいわれ、中山村と萩平村のさかいでもあったようです。

むかし、日吉神社のお祭りは10日間行われたと記録にあります。お祭りの2日目に神様が「輿」に乗られて奥宮である大倉大明神（中山）に渡られ、4日目に日吉神社へお帰りになったそうです。その往復の途中で神様がお休みになったのがおこし休みだと伝えられております。



馬頭観音（萩平町）

肩切り地藏 平野町

むかし中野田の松林にお地藏さんが祭ってありました。そのあたりに狐がいて通りがかりの人たちにいたずらを繰り返していました。旅の侍がこの話をきいて

「なに、悪がしこい狐が人間をたぶらかすんだって。では拙者が退治してやろう。」

と、狐のこらしめ役を買ってでました。そして夜になるのを待ち、お地藏さんのそばの松の木かげに身をひそめて狐が出てくるのを待ちました。しばらくすると、安川の方から人が近づいてきます。だんだん近くなる人影をじっと見ると、若い旅の娘であることが夜目にもはっきりとわかりました。

「アヤッ、娘などに化けおって。いまに見ておれ。」

侍は、娘が目の前を通り過ぎようとしたとき飛び出して「エイッ！」とばかりに切りつけました。「カチーン」と音がして、刀から火花が散りました。よく見るとお地藏さんの肩が切りおとされているではありませんか。

「ヤヤッ！これはしたり。地藏さんどうかお許しください。」

と、侍はお地藏さんのためにお堂を建てて、おわびをしました。それからのち、平野の人たちは娘の身代わりになってくれたお地藏さんを「肩きり地藏」と呼んで親しんだといいます。

この肩切り地藏にはべつ話もあります。

中山峠へつうじる三ヶ日道のうち、中野田10町（約1 km）は人家もなく、行きだおれや追いはぎ、人殺しなどがしばしばある気味悪いところでした。

ある晩、旅人が追いはぎに襲われ、いきなり刀で切りつけられました。「やられたっ」と思って目をつぶった瞬間、「カチーン」と音がして、お地藏さんが切られていました。

もうひとつの話はつぎのようです。

平野に美しい娘がいました。あまりに美しいので世間で評判になり、殿様の耳にもはりました。殿様は娘を嫁にくれといいましたが、娘はそれをことわりました。何べん申し込んでもいい返事をしないので殿様は怒ってしまいました。娘がお地藏さんへ毎日お参りしていることを知った殿様は「よしっ」と思

いました。

ある日、殿様はこっそりお地藏さんのかげにかくれて娘がくるのを待ちました。そんなこととは知らない娘が、いつものようにお参りを始めたとき、殿様はすかさず「ヤッ！」と刀で切りつけました。

ところが、ふしぎにも娘は無事でお地藏さんの肩が切りおとされていました。

このお地藏さんは、いま悟本寺の境内へうつされて多くの人たちに信仰されています。



肩切り地藏（平野町）

神明様

平野町

西郷の人びとは明治の初めまで萩平村の日吉神社を氏神様として信仰していました。ところが、その後自分の村で氏神様を祭るようになり、お宮がないのは平野村だけになってしまいました。

平野の村人たちは、「おらが村にもお宮を建てよう」と話し合いました。場所は本聖寺跡の近くにあるお上の土地がよいというので、もと武士であった富岡の里見千秋という人に頼んで払い下げてもらいました。

建物は新城市山吉田（旧鳳来町）にあった古いお宮をゆずり受けました。さて、いちばんの問題はお祭する神様です。いく日もいく日も相談した結果、「お多賀様」を祭ろうと102人の村人たちが連名で愛知県令（いまの

知事)にお願いしましたが許されませんでした。お多賀様を祭った「炭焼神社」をつくろうと意気こんでいた村人たちはがっかりしてしまいました。明治15年(1882)のことです。

それから、7年後に教会所ならよいと許可され、さらに3年後、牛川村に氏子がたった1名の「神明様」があることを知り、これをもらうことにきめました。

明治26年(1893)、平野にもやっとのことで「神明社」というお宮が誕生したのです。じつに20年近い苦勞が報いられた結果でした。

現在の神明様の社殿は昭和15年(1940)に再建されたもので、昔の社殿は「招勲社」として残されています。また、牛川のもと氏子という子孫の方は、いまでも4月の大祭にはお参りに来ています。



招勲社(平野町)

今橋城に使われた吉祥山の石 西川町

いまから500年もむかし、豊臣秀吉や徳川家康も生まれていなかったころの話です。

牛久保(豊川市)にいた牧野古白が馬見塚村の入道瀨に城を築くことになりました。現在の豊橋市役所があるあたりです。

大ぜいの家来や人夫をあつめて城づくりに

かかりましたが、豊川のふちが深く、そのうえ海からさしてくるしお水のために仕事ははかどらないし、やっとのことで築いた石垣の土台はくずれるしで困り果ててしまいました。そのとき、ある人がいました。

「ここは川の瀨だから川の主が住んでいるに違いない。吉祥天のおいでになる吉祥山の石を入れて、お祭をすればきつとうまくいくだろう。」

それを聞いた古白は、さっそく家来たちに命じて吉祥山から石を運ばせ、えらい坊さんや神主さんに拜んでもらいました。するとどうでしょう。たちまち水のいきおいがおとろえて、りっぱな今橋城(のちの吉田城)を築くことができたということです。

うんか送り

西川町

昔の百姓は農作物につく害虫や病気についての知識が足りませんでした。また、その防ぎかたも現在のように進んでいなかったので、ひたすら神様や仏様に豊作をお願いするという、神仏だのみの農業でした。

「うんか」は稲の汁を吸って枯らしてしまう害虫のことで、百姓にとっての大敵です。うんかをはじめ、その他の虫や病気を追いはらう行事を「うんか送り」といい、いまから250年くらい前から行われたといわれます。

うんか送りのあらましは、まず、村の代表者が伊勢神宮へお参りをして、村中の家へお札を受けてきます。田植えが終わると、そのお札を青竹にはさんで、田んぼの真ん中に立てて稲が病虫害にやられないように神様に守ってもらいます。

9月のはじめごろ、村人たちが集まってうんか送りの日をきめます。いよいようんか送りの日になると、日暮れと共に家族総出でたい松(青竹にたいまつをしばり、火をつけたもの)を持って、家の田んぼの周りをぐるぐ

ると回ってから、きめられたところへ村中の人が集まってきます。そこでは、持ってきたたいまつを一か所に積んでどンドン燃やしなから、笛・鐘・太鼓に合わせてうんか送りの歌をうたったり踊ったりします。

「神様のおかげでウンカは焼けたり逃げたりしてしまった。もうお米は豊作だ！」と祝って、夜のふけるまで踊りくるうのです。いまは、うんか焼場という場所が残っているだけです。



うんか送り (西川町)

吉祥山の射撃場 西川町

明治になって、政府は富国強兵の政策をとり、豊橋にも今の市役所のところへ第18連隊をおきました。そして、吉祥山のふもとへ実弾射撃場をつくったのです。

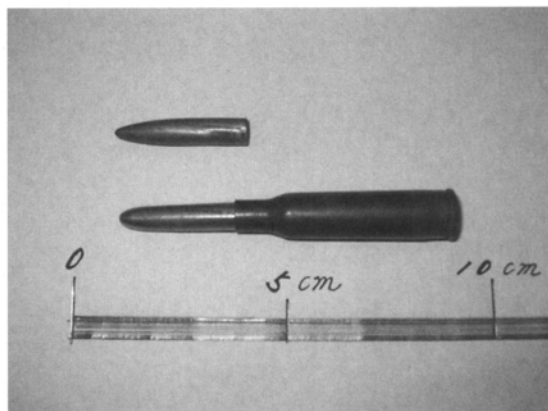
兵隊たちは豊橋から行軍(歩いて)して吉祥まできました。そして、村人たちに危険を知らせるために道路などの要所へ赤旗を立てて番兵(歩哨)をおきました。まわりからよく見える山の高い所へも赤い旗を立てて村人たちが射撃場へ入ってこないように注意しました。

射撃は、東名高速道路が通っているあたりから吉祥山の方へ向かって行いました。「ポン・ポン・ポン・ドドドドド・ドカーン・ドカーン」と小銃・機関銃・山砲などの音が入りまじって近くの山々に響きわたり、それがこだましてたいへんでした。

訓練のない日には腕白小僧たちが弾拾いに

行きました。形の変った珍しい弾や、傷みきずの少ない弾を拾うと得意になって友だちに見せたり、大事にしまっておいたりしました。

今でも、山のふもとの古い木の幹に弾が当たったきずあとを見かけることがあります。

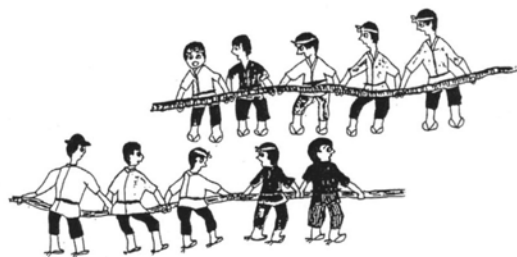


三八式歩兵銃の弾丸と薬きょう

なわて 縄手添い 小野田町

小野田と賀茂との境はたいへん小野田寄りです。広い農地のほとんどが賀茂の地域になっています。それには、つぎのようなわけがあります。

むかしむかし、お役人から「〇月〇日、賀茂と小野田の境をきめるから、その日に双方の村人はなわを持って相手方の村のほうへ進め。両者がぶつかった所を境とする。」とお達しがありました。



縄手添い (小野田町)

待ちに待ったその日、賀茂の村人は夜中の12時を過ぎると決められた日になったというので、なわを持ち、手をつないで、どんどん小野田の方へ寄せてきました。それにひきかえ、小野田の村人たちは、夜が明けてからが当日だと思い込み、夜明けを待って出ると、すぐそこまで賀茂の人たちが来ているではありませんか。「シマッタ!」と思いましたがあとのまつりで、おかみのお達しどおりそこが境ということになりました。

それからのち、この地を縄手添いというようになったということです。

織作河岸

小野田町

むかし、成沢のお宮のまえあたりに「織作河岸」という所がありました。間川が改修されて今はそのおもかげを見ることはできませんが、豊川から間川の上流へ向かって六杯・織作河岸とつづいていました。

昔は水かさも今よりずっと多く、この地方のさつまいも・たきぎ・かわらなどの産物はこの河岸(港)で舟に積み、吉田(豊橋)の関屋まで運びました。吉田城を築くときも、吉祥山の石の一部はここから舟に乗せられて運んだといわれます。

この河岸は大正の中頃まで(90年位前)つづき、多いときには3そうの舟がいっぺんにはいったそうです。

六杯という名は、もともとおかみより許された舟の数のことで、舟6そうという意味のようです。舟の持ち主は三上(豊川市)の人で、成沢の織作さんは回船問屋(舟問屋)をしていたということです。

織作河岸のほかに近くにある河岸は、間川の出口に「問屋河岸」。その上流500mくらいの所に「れんだい河岸」。問屋河岸の少し下流に「穴河岸」というようにたくさんありました。昔は川が重要な交通路だったことがこれ

でよくわかります。

田んぼで魚とり

小野田町

村の人々の楽しみに魚とりがありました。4月ごろは、田んぼへ行ってタニシを腰かごいっぱいとってきます。

5月から6月に雨が降って川に水が出る(増水する)と、フナ・ナマズ・コイなどが豊川からあがってくるので、これをとりにいくのです。漁具はシ(もり)・サデ・待ちあみなどです。

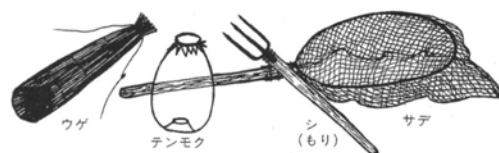
7月になり田植えがすむと、夜になるのを待って田んぼや溝にシとかタタキを持って、ガス灯をたよりにウナギとりに行きます。日中の暑かった日は田んぼにウナギがよく出るので。多いときは10ぴきあまりも捕ったことがあります。

8月になると、牟呂用水にフテ針をしかけてウナギをとったり、ウゲ・テンモクなどもやりました。

9・10月には雨が降って川に水が出ると、牟呂用水や間川に待ち網をしかけ、ウナギやズガニをとりましたがズガニなどはたくさん捕れすぎて処分に困ったこともあります。

豊川流域のこのあたりには、かすみ堤といわれる堤防が築かれていたので、大雨が降ると田んぼは海となり、豊川からたくさんの魚が流れの静かな田んぼへ入ってきたのです。

ひところは農薬などの影響で魚が姿を消しましたが、このごろになって、また魚の姿を見るようになり、自然が戻ってきたんだなど喜んでいきます。



漁具

西郷の歴史年表

年 号	主 な で き ご と	豊橋・日本のできごと
縄文時代	中野田遺跡・成沢遺跡	高山蛇穴遺跡
弥生時代	北之谷・象之谷で石斧を発見	
古墳時代	百数十基の古墳がつくられる	馬越長火塚古墳
貞観2 (860)	このころ大蔵神社を創建	645 大化改新
延久1 (1069)	大福寺を創建	
長承3 (1134)	日吉神社・太陽寺を創建	1192 鎌倉幕府開設
嘉慶1 (1387)	菩提寺を創建	1392 南北朝合一
大永1 (1521)	西郷氏がこの頃から約70年間活動	1505 牧野古白、今橋に築城
永禄4 (1561)	西郷正勝が五本松城を築く	
〃 5 (1562)	西郷弾正正勝と子元正ほか70名余が討死 正勝の子清員が西川城を築く	1575 長篠の戦い
天正7 (1579)	西郷の局が秀忠(徳川2代将軍)を出産	1582 本能寺の変
〃 15 (1587)	小野田素盞鳴神社を創建	1590 池田輝政、吉田城主となる
〃 18 (1590)	西郷氏が関東(千葉県)へ移封される	1603 江戸幕府開設
寛永6 (1629)	黒谷神社・西川素盞鳴神社を創建	1639 鎖国の完成
寛文3 (1663)	吉田城主小笠原長矩の分家、長秋の庁舎が西川城跡に設けられる	
元禄14 (1701)	中山に鷹打池を造る(面積約1.5ha)	
〃 15 (1702)	中野田の開墾はじまる(完成は20年後)	
〃 16 (1703)	大福寺に庚申塔を建立、以後20年の間に平野・萩平・中山・小野田にも建立	
宝暦13 (1763)	悟本寺を再建	
安永2 (1773)	宝王院を創建	
文化5 (1808)	悟本寺に秋葉山常夜燈を建立、以後40年の間に中山・萩平・小野田・西川にも建立	
天保11 (1840)	このころ小野田で瓦焼業、中山で石灰製造業がはじまる	1869 版籍奉還

年 号	主 な で き ご と	豊橋・日本のできごと
明 治 5 (1872)	この地方が愛知県となり、西郷は第14大区 (八名郡) 第2小区となる 西郷学校 (西郷小の前身) ができる 萩平の全戸、中山の86%が神道に改宗	1871 廃藩置県 1872 学制制定
〃 9 (1876)	入文村・成沢村が小野田村 中野田新田・平野村が平野村 中山村四ツ谷が萩平村へ編入 このころ西郷小学校の分校が中山・馬越にできる	となる (県の正式認可は2年後)
〃 13 (1880)	西川素盞鳴神社を現在地へ遷座	1885 歩兵第18連隊設置
〃 21 (1888)	中山・萩平・平野・西川・小野田・馬越の6か村を合わせて西郷村が成立 (正式には翌22年) 牟呂用水通水	1889 大日本帝国憲法発布
〃 22 (1889)	平野に巡査駐在所をおく	
〃 24 (1891)	黒谷神社を現在地へ遷座	
〃 26 (1893)	平野が神明社を牛川から現在地へ遷座	1894 日清戦争開戦
〃 35 (1902)	西郷小学校の校舎を現在地に新築し、竜泉寺校舎より移る	
〃 37 (1904)	中山・萩平・平野の入会山を解消して各大字の所有とする	1904 日露戦争開戦
〃 39 (1906)	西郷・嵩山・多米・玉川・三輪の5か村を合併して石巻村が誕生	1906 豊橋市制施行 1908 第15師団を誘致
大 正 1 (1912)	小野田で次郎柿の栽培をはじめ	
〃 6 (1917)	忠魂碑を西郷小学校校庭に建立 日清戦争1柱・日露戦争4柱を合祀	
〃 7 (1918)	西川・小野田に電燈がつく (中山・萩平・平野は大正11年以降)	1918 豊橋に米騒動
〃 14 (1925)	馬越分教場を廃止、西郷小学校へ通学する	1923 関東大震災
昭 和 3 (1928)	石巻公民学校 (玉川学校) 開校	
〃 16 (1941)	西郷小学校を西郷国民学校と改称	1941 太平洋戦争開戦
〃 17 (1942)	食糧管理令により「いも・麦」増産、柿園は減反される	

年 号	主 な で き ご と	豊橋・日本のできごと
昭 和20 (1945)	本土決戦準備のため西郷にも軍隊が駐留 西郷小学校の運動場がいも畑に変わる 戦争中の出征者433人、うち戦没者130人	1945 豊橋空襲 豊川海軍工廠空襲 無条件降伏
〃 21 (1946)	吉祥山麓へ36戸が入植し開拓をはじめ	1946 愛知大学開校
〃 22 (1947)	西郷国民学校を西郷小学校と改称 萩平公民館開館	1947 6・3制教育実施
〃 24 (1949)	作付統制がなくなり柿園増加 豊川用水工事はじまる（完工は昭和43年）	
〃 26 (1951)	みどり保育園開園	
〃 27 (1952)	森林法（新法）に基づき石巻村森林組合が設立された	
〃 28 (1953)	台風13号襲来、農作物の被害甚大	
〃 29 (1954)	西川公民館開館	
〃 30 (1955)	石巻村が豊橋市へ編入合併	1954 豊橋産業文化大博覧 会開催
〃 34 (1959)	伊勢湾台風襲来、農作物の被害甚大	
〃 35 (1960)	校区内の開墾・土地改良事業が以後10年にわたり行わ れる みどり保育園が現在地に移る このころ鶴田碎石・東海シーエスが採石をはじめ このころ養蚕農家がなくなる	
〃 37 (1962)	農協西郷支所を萩平町に新築	
〃 39 (1964)	西郷小学校校歌制定	
〃 40 (1965)	平野町に石巻統一の柿選果場を建設	
〃 41 (1966)	中部電力三河変電所ができる	
〃 42 (1967)	大蔵神社・日吉神社の雨乞面が市文化財に指定される	1964 東京オリンピック開催
〃 45 (1970)	忠魂碑へ太平洋戦争戦没者130柱を合祀	
〃 47 (1972)	豊橋自然歩道の第6期工事として中山自然歩道～本線 本坂峠コースを整備	
〃 51 (1976)	校区全戸へ公社電話をひく 吉祥山（標高300m以上）が自然環境保全地域に指定 される	1969 石巻山多米県立公園 指定、石巻山自然歩 道第1期工事完成

年 号	主 な で き ご と	豊橋・日本のできごと
昭 和53 (1978)	西川公民館を芸能練習場として市へ移管 西川町に斎田を設け献穀事業を行う（宮中・伊勢神宮・熱田神宮など）	1975 530運動はじまる
” 55 (1980)	校区全戸に上水道をひく 中山町の共有林を県林業公社へ委託	
” 56 (1981)	西郷校区市民館が開館	
” 57 (1982)	西郷小学校の管理棟が鉄筋コンクリートに改築され、 木造校舎がなくなる	
” 62 (1987)	萩平町の共有山を総有山に改める	
平 成 2 (1990)	吉祥地区が内陸工業用地として開発決定 萩平町の総有山を県林業公社へ委託	
” 3 (1991)	西郷校区市民館に駐車場完成 (1,500㎡) 中山町公民館が開館	
” 4 (1992)	忠魂碑を西郷小校庭から現在地へ移築	
” 8 (1996)	西川町にかたくりハウス（老人憩の家）開館 吉祥山頂付近で火災発生	
” 9 (1997)	「健康の道」賀茂しょうぶ園～カタクリ山コース 全長約5.9kmが設定された	1995 阪神・淡路大震災
” 9～11 (1997～1999)	吉祥山生活環境保全林（月の森）整備事業が実施された	1969～2005 「健康の道」市 内で10コースを設定
” 13 (2001)	柿選果場が平野町から石巻本町字太夫橋へ移る	
” 14 (2002)	農協西郷支店・西川支店・賀茂支店が統合して北支店 となる	
” 15 (2003)	平野町公民館・多目的ホールが開館	
” 17 (2005)	小野田町地内の牟呂用水を改修 豊橋市森林組合解散	2005 愛知万博開催

編 集 後 記

この校区史は、市制100周年記念事業の一環として、他校区と協調しながらの編集でしたので、頁数から内容に至るまで多くの制約をうけて、自由で主体的な企画ができませんでした。

編集委員会の発足以来、二十数回の会を重ねてようやく脱稿にこぎつけました。その間、熱心な議論と検討が続けられる中で、とよはし100祭サポーターの皆さんには、パソコンによる原稿の添削・校正などを中心に協力していただきましたが、繰り返しの作業に的確に対応していただいたことを改めて感謝いたします。

論語に「温故知新」－古きをたずねて新しきを知る－ということばがあります。郷土を愛する多くの人たちが、この校区史を通して更に興味や関心を深めていただくことができれば、編集委員一同心から喜びとするところです。

西郷校区史編集実行委員

【編集委員】

委員 長	平成16年度校区総代会長	今 川 博 之
“	平成17年度校区総代会長	岩 瀬 貞 治
“	平成18年度校区総代会長	夏 目 利 泰
副委員 長 (執筆責任者)		阿 部 義 明
委 員		富 田 芳 治
“		中 西 靖 夫
“		白 井 孝 昌

【協力者】

西郷小学校 校長	小久保 敏 夫
みどり保育園 園長	牧 野 幸 子
学識経験者	今 川 正 弘

【とよはし100祭サポーター】

豊橋市職員	繁 原 章 悟
“	今 川 信 行
“	岩 瀬 省 三
“	中 西 眞 己
“	熊 谷 誠

校区のあゆみ 西郷

平成18年12月25日発行
編 集 西郷校区総代会
西郷校区史編集委員会
発 行 豊橋市総代会
印 刷 髙 ぎょうせい

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています

PRINTED WITH
SOY INK
Trademark of American Soybean Association

